

市内遺跡調査概報 XXIII

— 平成24年度 越中国府関連遺跡の調査他 —

2014年3月

高岡市教育委員会

市内遺跡調査概報XXIII

— 平成24年度 越中国府関連遺跡の調査他 —

2014年3月

高岡市教育委員会

序

高岡市域においては、現在341箇所もの遺跡が周知されています。これら多くの遺跡で醸成された文化は、先祖から代々受け継がれ、現代の高岡市の風土や郷土文化をかたちづくっておりまます。本市としましては、これら貴重な文化財を今後も保護して参る所存あります。

このたび報告いたしますのは、個人住宅等の建設に伴い平成24年度に実施しました試掘調査20遺跡32地区と本調査1遺跡1地区の概要です。このうち、本調査を実施した越中国府関連遺跡では、古代の建物跡などの遺構群のほか、古代の硯や瓦を検出いたしました。このことによって、越中国府関連遺跡の実態について貴重な資料を得られたと考えております。

本書を郷土における歴史探求や学術研究にご活用いただければ幸いです。

末尾になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成26年3月

高岡市教育委員会
教育長 水見 哲正

例 言

1. 本書は、富山県高岡市において高岡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 当調査は、個人住宅の建設等の開発行為に伴い実施したものである。
3. 現地調査は平成24年度に国庫補助金の交付を受けて実施し、これにかかる報告書作成は平成25年度国庫補助金の交付を受け、高岡市教育委員会が実施した。
4. 本書で報告する遺跡ならびに調査地区は20遺跡29箇所である。
5. 調査形態は、本発掘調査を実施した越中国府関連遺跡（牧野地区）以外はすべて試掘調査である。
6. 調査関係者は以下のとおりである。

課 長 高田 克宏（23～25年度）

課長補佐 富山 尚樹（24～25年度）

主 査 根津 明義（21～25年度）

主 事 田上 和彦（24～25年度）

嘱託職員 中野 由美子（24～25年度）

江口 雅子（23～25年度）

杉山 大晋（24～25年度）

7. 屋外調査は24年度に根津・田上・江口・杉山が担当し、報告書の編集は田上・杉山が担当した。

8. 発掘調査及び遺物整理の従事者は次の通りである。（五十音順）

【現地調査】

石田敏行 小板達朗 高嶋輝雄 富田幸吉 岐山行男 馬道弘一 二口誠治

【報告書編集作業】

竹部光希 宮野美重子

9. 発掘調査にかかる遺物等の資料は、すべて高岡市教育委員会が一括保管している。

10. 現地調査や報告書の作成等は、以下の各氏から指導・協力を得た。

久々忠義 鈴木景二 西井龍儀 古岡英明（五十音順 敬称略）

凡 例

1. 本書に掲載した遺構図の方針は座標北であり、水平基準は海拔高である。
2. 本書においては、各遺構に対し、次のような記号を付してその種別を表した。
S A : 棚址 S B : 掘立柱建物 S D : 溝状遺構 S E : 井戸址 S K : 土坑
S X : 凹地及び性格不明遺構 S Z : 方形周溝墓

市内遺跡調査概報XXIII

目 次

序
例 序
例 言
凡 例

目 次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境..... 1

第2章 越中国府関連遺跡（牧野地区） 5

第1節 遺跡概観

第2節 調査の概要

第3節 遺構と遺物

第4節 小結

第3章 その他の遺跡調査..... 15

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 桜谷古墳群（瀧田地区） | 16. 鷺北新遺跡（あかね会地区） |
| 2. 越中国府関連遺跡（南地区） | 17. 鷺北新遺跡（N T C 地区、西川地区） |
| 3. 石名瀬A遺跡（新開地区） | 18. 三ヶ遺跡（三興土木地区） |
| 4. 井口本江遺跡（秋山地区） | 19. 高美町遺跡（向地区） |
| 5. 瑞龍寺遺跡（赤井地区） | 20. 瑞穂町遺跡（ア・ライズ地区） |
| 6. 瑞龍寺遺跡（岩佐地区） | 21. 井口本江遺跡（再開発地区3） |
| 7. 越中国府関連遺跡（牧野地区） | 22. 上二上東遺跡（村上地区） |
| 8. 前田墓所遺跡（山崎地区、瀧地区） | 23. 越中国府関連遺跡（山崎地区） |
| 9. 牧野金屋遺跡（堀田地区） | 24. 守護町遺跡（黒木地区） |
| 10. 下老子笠川遺跡（砂浦地区） | 25. 出来田南遺跡（南地区） |
| 11. 越中国府関連遺跡（溝田地区） | 26. 東木津遺跡（津沢地区） |
| 12. 中木津遺跡（上野地区） | 27. 越中国府関連遺跡（魚倉地区） |
| 13. 中木津遺跡（寺西地区） | 28. 上糞中田遺跡（塚本地區） |
| 14. 麻生谷遺跡（村田地区） | 29. 越中国府関連遺跡（上野地区） |
| 15. 中川遺跡（嵯峨地区） | |

写真図版

図面目次

- 第1図 調査位置図
第2図 越中国府関連遺跡（牧野地区）位置図
第3図 越中国府関連遺跡（牧野地区）調査区位置図
第4図 越中国府関連遺跡（牧野地区）概略図
第5図 越中国府関連遺跡（牧野地区）掘立柱建物 SB01・02 実測図
第6図 越中国府関連遺跡（牧野地区）掘立柱建物 SB03・04 実測図
第7図 越中国府関連遺跡（牧野地区）土層断面図
第8図 越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図1
第9図 越中国府関連遺跡（牧野地区）遺物実測図2
第10図 調査地点位置図
第11図 桜谷古墳群（瀧田地区）位置図
第12図 越中国府関連遺跡（南地区）位置図
第13図 石名瀬A遺跡（新開地区）位置図
第14図 井口本江遺跡（秋山地区）位置図
第15図 瑞龍寺遺跡（赤井地区）位置図
第16図 瑞龍寺遺跡（岩佐地区）位置図
第17図 越中国府関連遺跡（牧野地区）位置図
第18図 前田墓所遺跡（山崎地区、瀬地区）位置図
第19図 牧野金屋遺跡（堀田地区）位置図
第20図 下老子篠川遺跡（砂浦地区）位置図
第21図 越中国府関連遺跡（溝田地区）位置図
第22図 中木津遺跡（上野地区）位置図
第23図 中木津遺跡（寺西地区）位置図
第24図 中木津遺跡（上野・寺西地区）概略図
第25図 麻生谷遺跡（村田地区）位置図
第26図 中川遺跡（嵯峨地区）位置図
第27図 鷲北新遺跡（あかね会地区）位置図
第28図 鷲北新遺跡（あかね会地区）概略図
第29図 鷲北新遺跡（N T C地区、西川地区）位置図
第30図 三ヶ遺跡（三興土木地区）位置図
第31図 三ヶ遺跡（三興土木地区）トレンチ位置図
第32図 三ヶ遺跡（三興土木地区）出土遺物実測図
第33図 高美町遺跡（向地区）位置図
第34図 瑞穂町遺跡（ア・ライズ地区）位置図
第35図 井口本江遺跡（再開発地区3）位置図

- 第36図 上二上東遺跡（村上地区）位置図
- 第37図 越中国府閔連遺跡（山崎地区）位置図
- 第38図 守護町遺跡（黒木地区）位置図
- 第39図 出来田南遺跡（南地区）位置図
- 第40図 東木津遺跡（津沢地区）位置図
- 第41図 越中国府閔連遺跡（魚倉地区）位置図
- 第42図 上養中田遺跡（塚本地区）位置図
- 第43図 越中国府閔連遺跡（上野地区）位置図

図版目次

- 図版〇一 越中国府閔連遺跡 牧野地区 1. C区全景 西から 2. B区全景 東から
- 図版〇二 越中国府閔連遺跡 牧野地区 1. B区 SB01・02 完掘状況 南から
2. B区 SB01・02 SP06・07 土層断面 南から 3. C区 SB01 SP42・43 完掘状況 北から
- 図版〇三 越中国府閔連遺跡 牧野地区 1. C区 潟 SD42 完掘状況 北から
2. B区 潟 SD03 完掘状況 南から 3. B区 潟 SD02 遺物出土状況 南西から
- 図版〇四 越中国府閔連遺跡 牧野地区 1. C区 SB03・04 完掘状況 東から
2. C区 SB01・02 完掘状況 東から 3. B区 SD03 完掘状況 南から
- 図版〇五 越中国府閔連遺跡 牧野地区 出土遺物
- 図版〇六 越中国府閔連遺跡 牧野地区 出土遺物
- 図版〇七 石名瀬A遺跡 新開地区 1. 第1トレンチ 全景 東から 2. 第2トレンチ 西側土層断面 南から
- 図版〇八 瑞龍寺遺跡 赤井地区 1. 第1トレンチ全景 東から 2. 溝状遺構検出状況 北東から
- 図版〇九 前田墓所遺跡 1. 山崎地区 第2トレンチ 完掘状況 東から
2. 渕地区 第1トレンチ 完掘状況 東から
- 図版一〇 中木津遺跡 上野地区 1. 第1トレンチ全景 北東から 2. 第2トレンチ全景 北東から
- 図版一一 中木津遺跡 寺西地区 1. 第1トレンチ全景 東から 2. 柱穴SP01土層断面 北から
- 図版一二 中川遺跡 嵐城地区 1. 第1トレンチ全景 北から 2. 第2トレンチ全景 南から
- 図版一二 驚北新遺跡 あかね会地区 1. 第1トレンチ全景 北から 2. 第2トレンチ 潟1・2検出状況 南から
- 図版一四 驚北新遺跡 あかね会地区 1. 第3トレンチ全景 南から 2. 第4トレンチ全景 南から
- 図版一五 三ヶ遺跡 三興土木地区 1. 第2トレンチ全景 南東から 2. 第2トレンチ柱穴列 東から
- 図版一六 高美町遺跡 向地区 1. 完掘状況南側 西から 2. 第5トレンチ北壁 南から
- 図版一七 瑞穂町遺跡 ア・ライズ地区 1. 第1トレンチ全景 北から 2. 第3トレンチ全景 北から
- 図版一八 井口本江遺跡 再開発3地区 1. 第1トレンチ全景 北から 2. 第3トレンチ 溝検出状況 南東から
- 図版一九 井口本江遺跡 再開発3地区 1. 第6トレンチ 北壁土層断面 南から
2. 第11トレンチ 溝検出状況 南東から
- 図版二〇 越中国府閔連遺跡 山崎地区 1. 第1トレンチ全景 南から 2. 第3トレンチ全景 西から
- 図版二一 東木津遺跡 津沢地区 1. 第1トレンチ全景 北から 2. 第1トレンチ 西壁土層断面 東から
- 図版二二 上養中田遺跡 塚田地区 1. 全景 東から 2. 南壁土層断面 北から

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

高岡市は富山県の西部に位置し、県内第2位の人口を擁する。市域は東西約24.5km、南北約19.2kmに及び、その面積は富山県域の約5%にあたる209.38km²を呈する。

地形的には山間部のほか、丘陵部や平野部から成り、北部では日本海の富山湾に面する。平野部は北陸有数の穀倉地帯を形成し、古くから舟運や海運の発達を促した地勢を有した地域といえる。

市内には庄川と小矢部川が所在する。高岡の平野部はこの二河川による複合的な扇状地で形成されているが、小矢部川左岸では西山丘陵とよばれる標高300mに満たない丘陵がつらなり、能登半島の宝達山を主峰とする山間部に繋がっている。

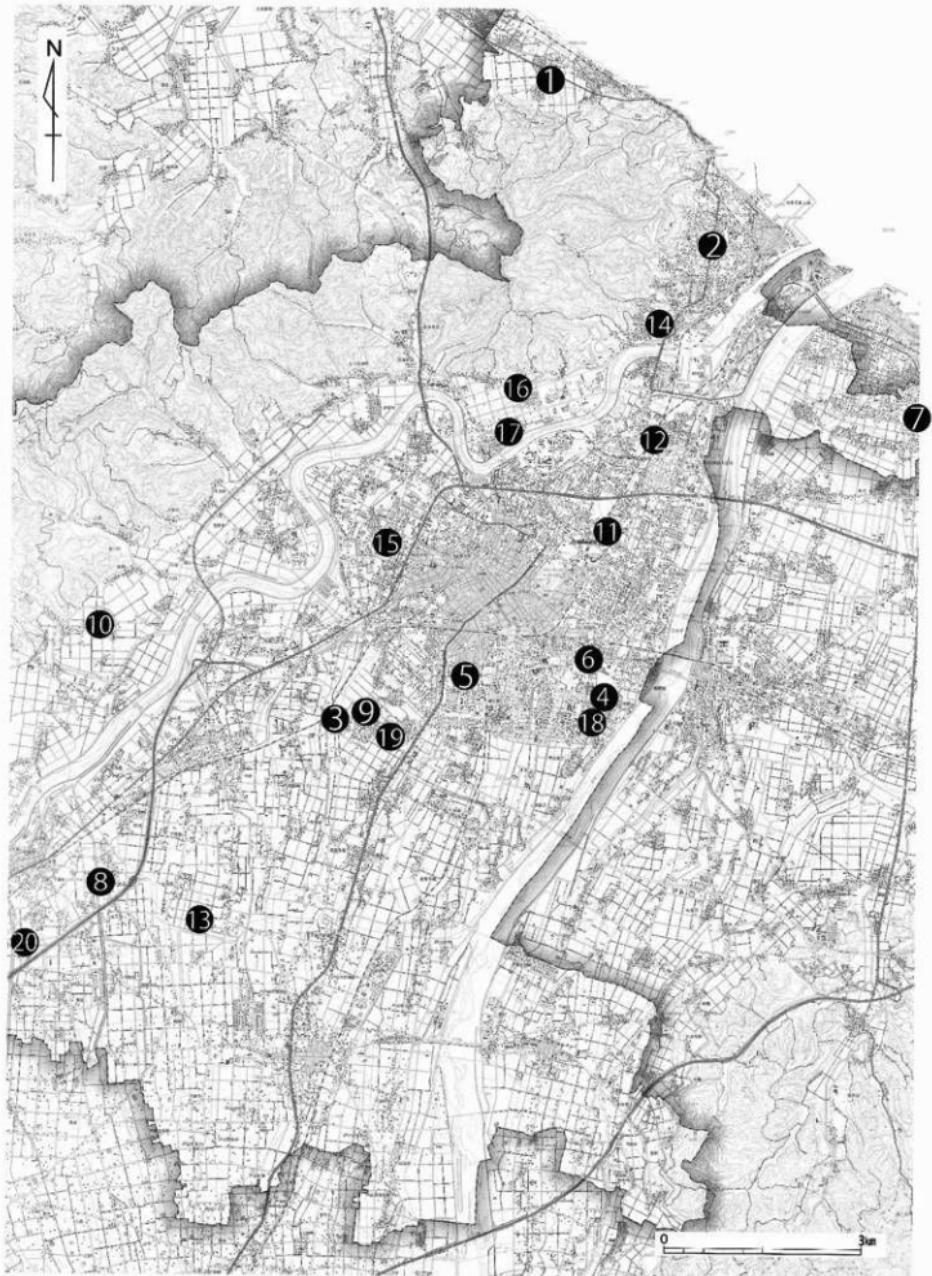
現在、高岡市では341もの遺跡が周知されており、その分布状況は、山間部のほか丘陵部や平野部に大別できる。山間部では旧石器時代の遺跡が点在し、縄文時代の遺跡も谷あいの平坦地などで確認されている。丘陵部には古墳群や中世城館などが密集する。また、古代の北陸道は西山丘陵の山麓線沿いにはじっていたとされる。

平野部には、弥生時代を主体とする集落遺跡として県内有数の規模を誇る石塚遺跡や下老子笹川遺跡、古代における官衙的な遺跡とされる東木津遺跡や中保B遺跡、中世の木舟城の城下町遺跡である石名田木舟遺跡など、県内の考古学研究史を語るうえでも欠かすことのできない遺跡が集中している。

越中国府関連遺跡では多くの成果があった。牧野地区では越中国府整備期の大型掘立柱建物や溝、古代後期の掘立柱建物が確認された。勝興寺周辺において国府に隣接する遺構は見つかっていたが、遺構の本格的な発掘調査を行うことで多くの知見が得られた。

鶯北新遺跡では、小矢部川と旧庄川が形成した自然堤防上に位置し、古代～中世の掘立柱建物や弥生土器を含む溝など、多くの遺物や遺構が確認されている。また井口本江遺跡など旧庄川下流域に広がる遺跡の調査が進み、低地の河川付近に生活が営まれた痕跡が次第に明らかになっている。佐野台地上の遺跡からは数多くの遺物が発見された。佐野台地北端に位置する中木津遺跡では、平成23年度以降に本発掘調査が実施され、集落や旧河川跡などが見つかっている。その周辺の地点においても、遺構の範囲がさらに広がることが明らかになった。

- | | |
|--|----------------------------|
| ① 桜谷古墳群（灘田地区） | ⑪ 中川遺跡（嵯峨地区） |
| ② 越中国府関連遺跡
(牧野地区・溝田地区・山崎地区・魚倉地区・上野地区) | ⑫ 鶯北新遺跡（あかね会地区・NTC地区・西川地区） |
| ③ 石名瀬A遺跡（新闇地区） | ⑬ 三ヶ遺跡（三興土木地区） |
| ④ 井口本江遺跡（秋山地区・再開発地区3） | ⑭ 高美町遺跡（向地区） |
| ⑤ 瑞龍寺遺跡（赤井地区・岩佐地区） | ⑮ 瑞穂町遺跡（ア・ライズ地区） |
| ⑥ 前田墓所遺跡（山崎地区・瀬地区） | ⑯ 上二上遺跡（村上地区） |
| ⑦ 牧野金屋遺跡（堀田地区） | ⑰ 守護町遺跡（黒木地区） |
| ⑧ 下老子笹川遺跡（砂浦地区） | ⑯ 出来田南遺跡（南地区） |
| ⑨ 中木津遺跡（上野地区・寺西地区） | ⑯ 東木津遺跡（津沢地区） |
| ⑩ 麻生谷遺跡（村田地区） | ⑰ 上賀中田遺跡（塙本地区） |



第1図 調査位置図

平成24年度の遺跡調査一覧

No.	遺跡名	読み方	所在地	時代	種別	現状
1	桜谷古墳群	さくらだにこふんぐん	太田 伏木	古墳 古代～中世	古墳 古墳	史跡・埋蔵か 宅地
2	越中郡河間遺跡	えっちゅうごくふかんれんいせき	—	—	官衙	—
3	石名廬A遺跡	いしむらAいせき	石名瀬 井日本江	生~中世 奈良~平安	集落 集落	水田 水田・宅地
4	井口本町遺跡	いぐちほんごういせき	尾木町	近世	寺院	城内地
5	瑞龍寺遺跡	りゅうりゅうじいせき	—	—	—	—
6	前田馬所遺跡	まえだばしょいせき	古舊 牧新田	近世	古墓 弥生~奈良・生中世~近世 彌文~朝・生中世	史跡 水田
7	牧野金熊遺跡	まきのかなやいせき	下老子・鶴川	—	散落地	—
8	下老子坂II遺跡	しもおじさかがわいせき	木津 麻生谷	奈良~近世 古墳~中世	散布地 集落	集落・操作地 水田
9	中木津遺跡	なかづいせき	—	—	—	散布地
10	麻生谷遺跡	あそうやいせき	中川	—	集落	水田・宅地
11	中川遺跡	なかわいせき	船町	—	集落	宅地
12	驚北新遺跡	わしきたしんいせき	—	—	散布地	耕作用地・水田
13	三ヶ池遺跡	さんかいけいせき	二ヶ	—	散布地	水田
14	高美町遺跡	たかみちょういせき	二上	不明	散布地	宅地
15	瑞穂町遺跡	みずほまちいせき	増穂町	—	—	宅地
16	上二上東遺跡	かみふたがみひがしいせき	二上	—	散布地	畑
17	守郷町遺跡	しゅごまちいせき	守山	奈良~中世	散布地	宅地
18	出来印前遺跡	できでんみなみいせき	出来田	奈良~平安	集落	小田・宅地
19	萬木津遺跡	ひがしきいせき	木津	弥生~近世	集落・官衙	水田・宅地
20	上園牛田遺跡	かみいのなかたいせき	上園・園島	古代・中世・近世	散布地	集落・操作地

第2章 越中国府関連遺跡（牧野地区）

第1節 遺跡概観

越中国府関連遺跡は、庄川河口部に接する河岸段丘上の伏木台地に位置し、古墳後期～中世・近世に至るまで断続的に集落が確認され、古代においては越中国府が置かれた場所とされる。越中国府の所在は伏木台地にあったとされ、それがほぼ定説になっている。

越中国府跡推定地とされている勝興寺の南側一帯は、白鳳時代の瓦が多く採集されており、国府設置以前に寺院が存在したとされている。小字名から「御亭角廃寺」と称されるこの寺院は、伊弉頭國造射水臣氏との関連が指摘されている。越中国府跡については、勝興寺南接地区において掘立柱建物群が検出されている。また、美野下遺跡高岡古府庁舎地区では多量の国分寺式瓦や供服用七器のほか、「傳厨」と墨書きされた須恵器など国府周辺施設の存在を示す遺物が出土している。

戦国時代に入り、天正9年（1581）に佐々成政は勝興寺・瑞泉寺を中心とする一向一揆を制圧し越中を支配した。天正12年（1584）に成政と守山城を拠点とする神保氏張により勝興寺は現在の地に土地を寄進された。現在の勝興寺の土塁と堀について、勝興寺移転後に築いたとする説と、天正12年以前にすでにあったとされる古国府城の一部を利用したとする説がある。

本調査地点は伏木台地の南東側に位置し旧遺跡名は東館遺跡と呼ばれる。古岡英明氏により古府八幡社境内で丸瓦が採集されている。過去の調査として、勝興寺南接地区では古代～中世の掘立柱建物や溝など検出された。美野下遺跡では構造の検出はないが、台地上から移動した多量の土器類が出土し、双方とも瓦・高級陶器が存在する。



第2図 越中国府関連遺跡（牧野地区）位置図

第2節 調査の概要

調査は、まず重機で表土を掘削し、その後に作業員を動員して包含層の掘削をはじめ、遺構検出・遺構掘削・遺物取り上げといった一連の掘削関連の作業を行った。またこれと並行して各種写真撮影のほか、遺構概略図・遺構断面図・遺構平面図作成等の記録化作業を実施した。

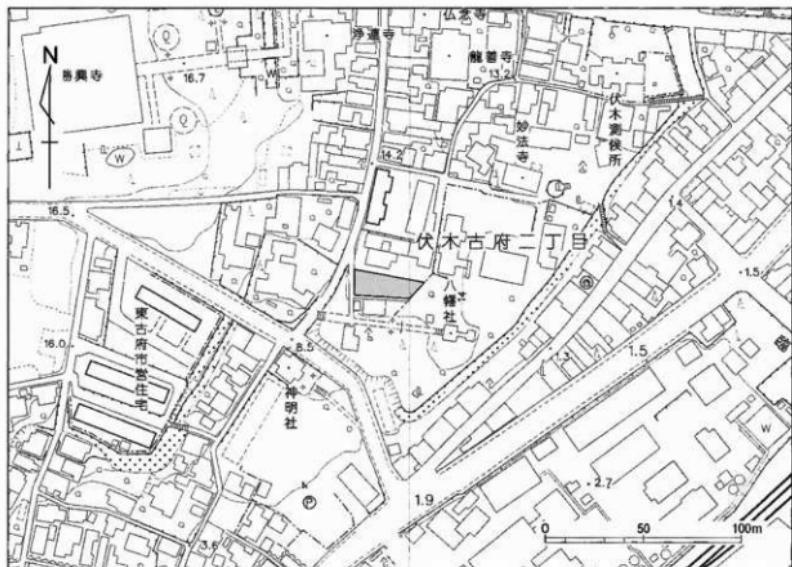
作業は平成 21 年 7 月 25 日から 9 月 7 日まで行い、対象となる 499 m²のうち試掘調査の結果を基に対象地西側の発掘調査可能な 201 m²を発掘調査した。

本調査地区の基本層序は、基盤層をふくめて4層に分層できる。まず、厚さ約20～35cmのⅠ層（表土層）を最上層とし、以下は、厚さ約15～20cmのⅡ・Ⅲ層（黒褐色土）がある。Ⅲ層は遺物包含層であり、その下が遺構検出面及び基盤層（Ⅴ層）となっている。調査対象地東側は住宅建設により破壊されていた。また、近世～現代の瓦や盛土が厚く積まれており、遺構・遺物とともに確認されなかった。

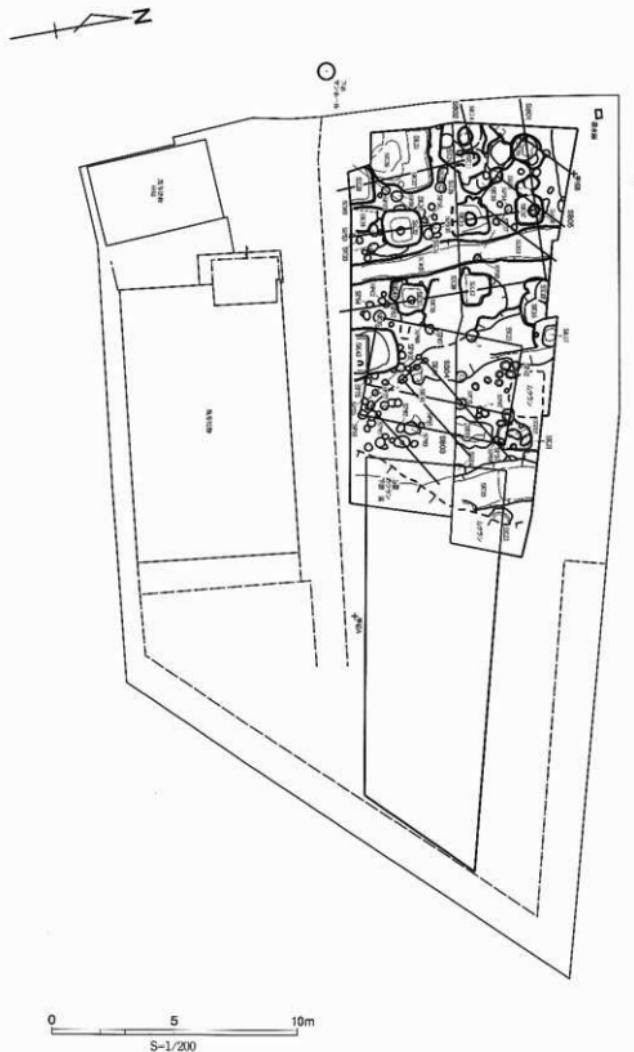
第3節 檢出遺構と出土遺物

本調査地区は、平成24年度に試掘調査を実施しており、その結果にともづき遺構面が1面あることを想定して今回の本発掘調査を実施した。遺構が確認されたのはIV層である。

検出遺構は、掘立柱建物4棟以上、柱穴105基以上、土坑20基、溝状遺構4条（SD01～04）である。本概要に掲載した遺構・遺物実測図は整理途中の成果であり、掘立柱建物の数等も含めて今後の遺物整理により変更があることを了解願いたい。



第3図 越中国府関連遺跡（牧野地区）調査区位置図



第4図 越中国府閻連遺跡（牧野地区）概略図

掘立柱建物 SB01

調査区西側で検出された。南北軸の掘立柱建物である。建物は東側・南側に続く。軸はN-1°-Eで、ほぼ磁北と方向を揃える。規模は桁行2間以上（約6.4m）、梁行2間以上（約8m）で、柱間は桁行約2.7~2.9m、梁行約2.5mである。SK10とSK13、SK32とSK37の対応関係より、庇付きの建物を想定したい。掘り方の平面は隅丸方形ないし不整形で、検出面からの柱穴の深さは約60~70cmである。柱穴の一部で、柱痕と底部にあたりが確認できる。SK07は北側に浅い掘り込みと西側にSK06があり、足場等の痕跡も認められる。SK10はSP29に切られ、切り合い関係は明確ではないが、その他小規模な柱穴に切られると見られる。柱穴からの出土遺物は、古代土師器（杯・椀）、古代煮炊具、赤彩土師器、須恵器（杯・甕）、古代平瓦（越中国分寺式）、円面鏡、墨書き器などがある。

掘立柱建物 SB02

調査区西側で検出された。南北軸の掘立柱建物である。建物は東側・南側に続く。軸はN-3~4°-Wで、やや磁北西に振る。規模は、桁行2間以上（約5.2m）、梁行1間以上（約1.5m）で、柱間は約2.5mで均一である。掘り方の平面は、隅丸方形ないし不整形で、検出面からの柱穴の深さは約50~70cmである。柱穴SK11で、柱痕と底部にあたりが確認できる。出土遺物は、土師器杯、須恵器（杯・甕）である。

掘立柱建物 SB03

調査区東側で検出された。南北軸の側柱建物である。軸はN-22°-Eで東に振る。規模は、桁行4間以上（約6.3m）、梁行2間以上（約3.5m）で、柱間は約1.7~2.1mと一定しない。掘り方の平面は不整梢円形で、検出面からの柱穴の深さは約30~40cmである。いずれの柱穴も規模は小さく、柱筋の通りは悪い。出土遺物は、古代土師器（杯・椀）、須恵器甕である。遺物の主体は、9世紀後半以降である。

掘立柱建物 SB04

調査区東側で検出された。南北軸の側柱建物である。軸はN-58°-Eで東に振る。規模は、桁行2間以上（約5.5m以上）、梁行2間程度（約2.9m）で、柱間は桁行2.1~2.3m程度である。掘り方の平面は不整梢円形で、柱穴の径の規模は小さい。検出面からの柱穴の深さは約20~40cmである。出土遺物は、古代土師器椀、古代須恵器甕である。

土坑 SK22・42

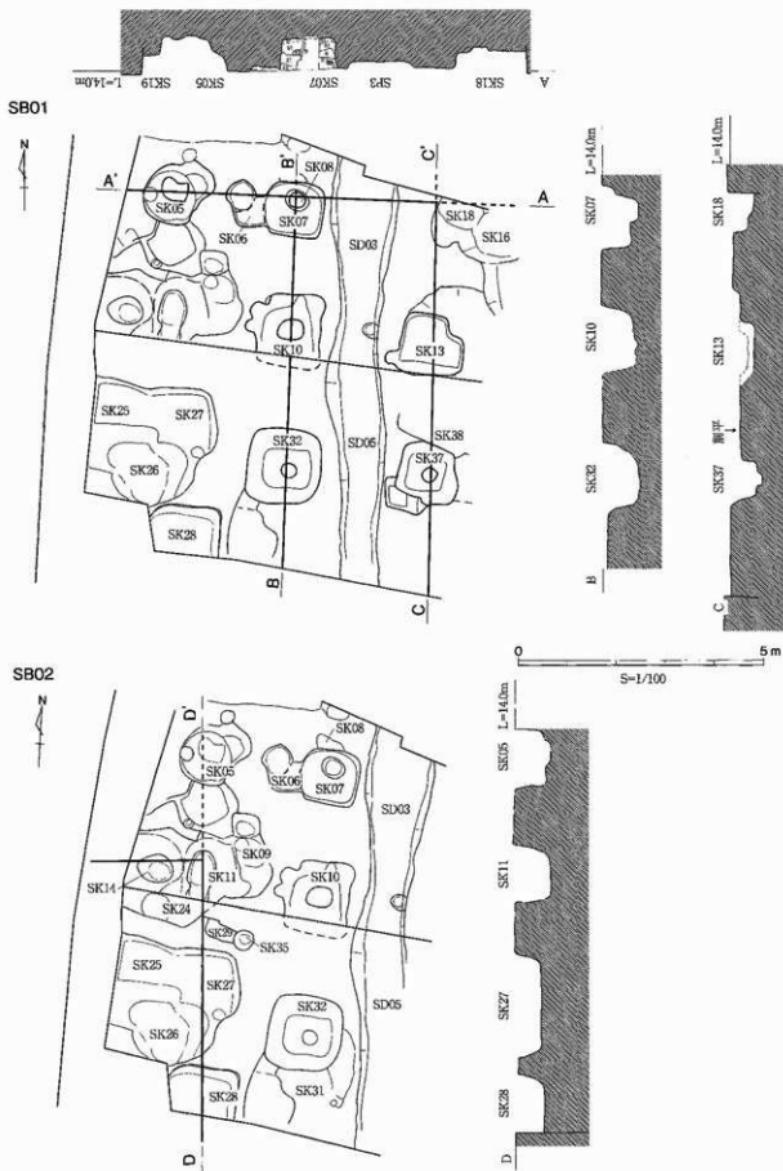
調査区中央で検出された。南北軸の土坑であるが、2基の土坑が南北に続き、同軸の溝になる可能性がある。SK22は幅1.9~2.4m、SK42は幅1.7~2.2mを計り、双方の間にねじれこまれずに途切れた部分がある。前後関係は確認できないが、SK22の遺構掘削後にSK16~18が検出された。SK42においても、南側に方形の掘り込みが確認できることから、下層に柱穴などの遺構がある可能性がある。出土遺物は、須恵器、土師器である。

土坑 SK03

調査区東側で検出された。南北軸の土坑で、長さ3.5m以上、幅1.5~1.8m、深さ約50cmを計る。南側は後世のカクランにより削平されている。断面形状は底面は緩い皿状で、側面はほぼ垂直に立ち上がる。遺構底面に不整形の掘り込みがあり、柱穴などの遺構がある可能性がある。出土遺物は、古代平瓦、古代須恵器（杯A・B）、古代土師器（杯・椀）、円面鏡などがある。前後関係は明確ではないが、SB01の後に掘削された可能性が高い。

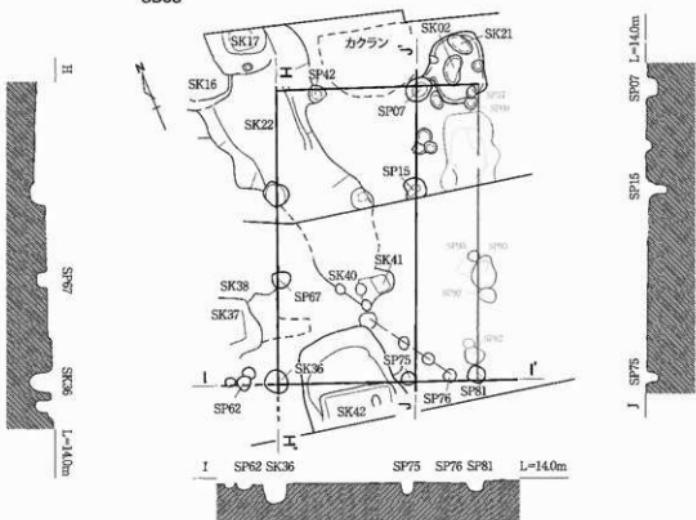
溝 SD03・05

調査区中央で検出された。南北軸の溝で、長さ8.6m以上、幅0.7~1.3m、深さ40~50cmを計る。SB01とは同じ軸で検出した。前後関係は明確ではないが、SB01の後に掘削された可能性が高い。出土遺物は、漆が付着した土師器などがある。

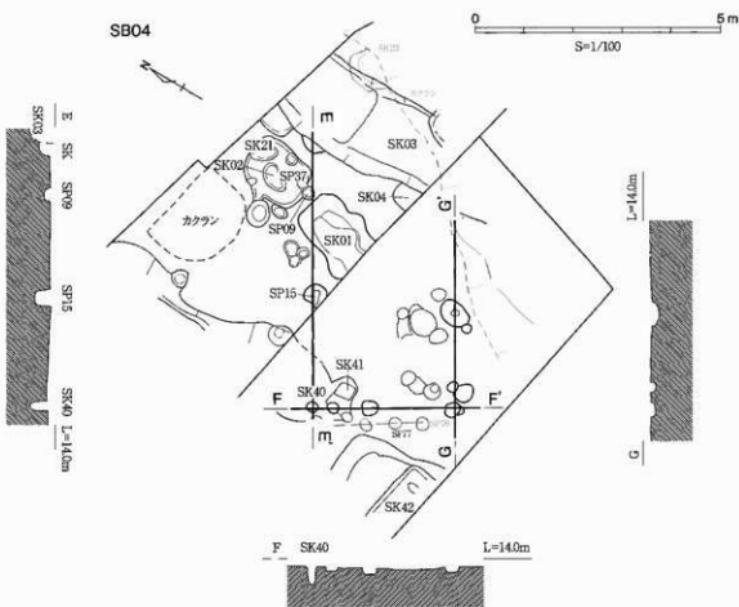


第5図 越中国府間連遺跡（牧野地区）掘立柱建物 SB01・02 実測図

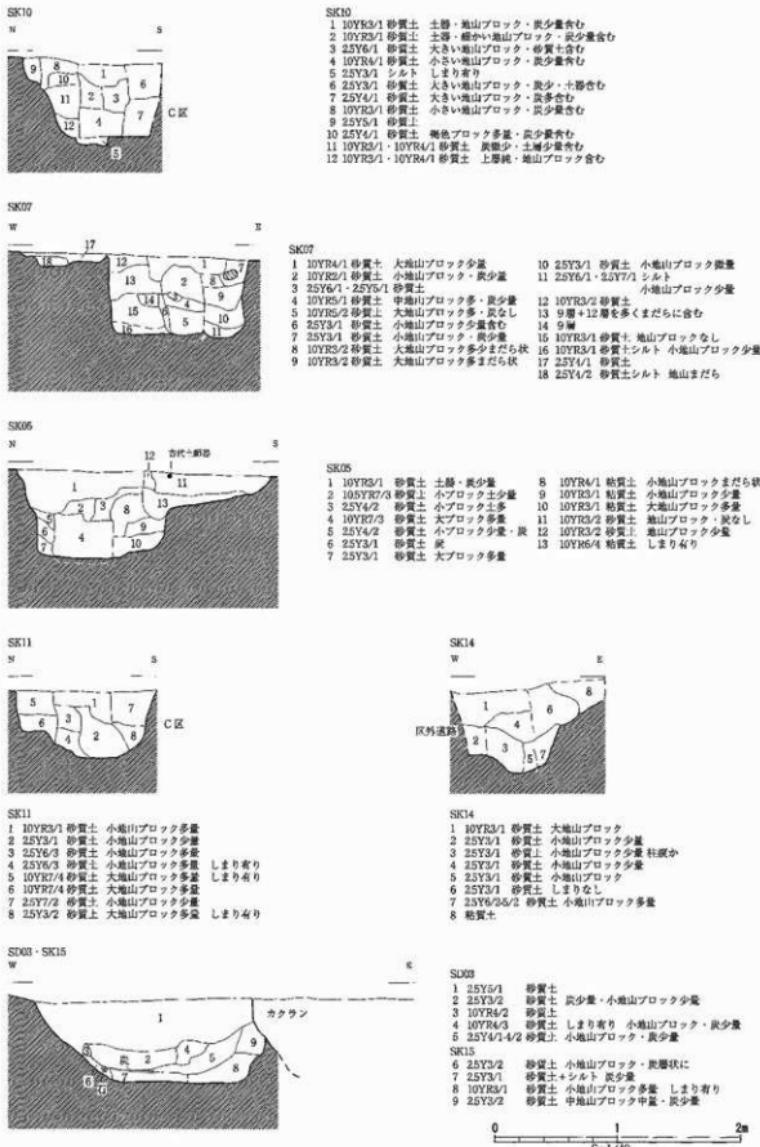
SB03



SB04



第6図 越中国府間連遺跡（牧野地区）掘立柱建物SB03・04 実測図



第7図 越中国府間連遺跡（牧野地区）土層断面図

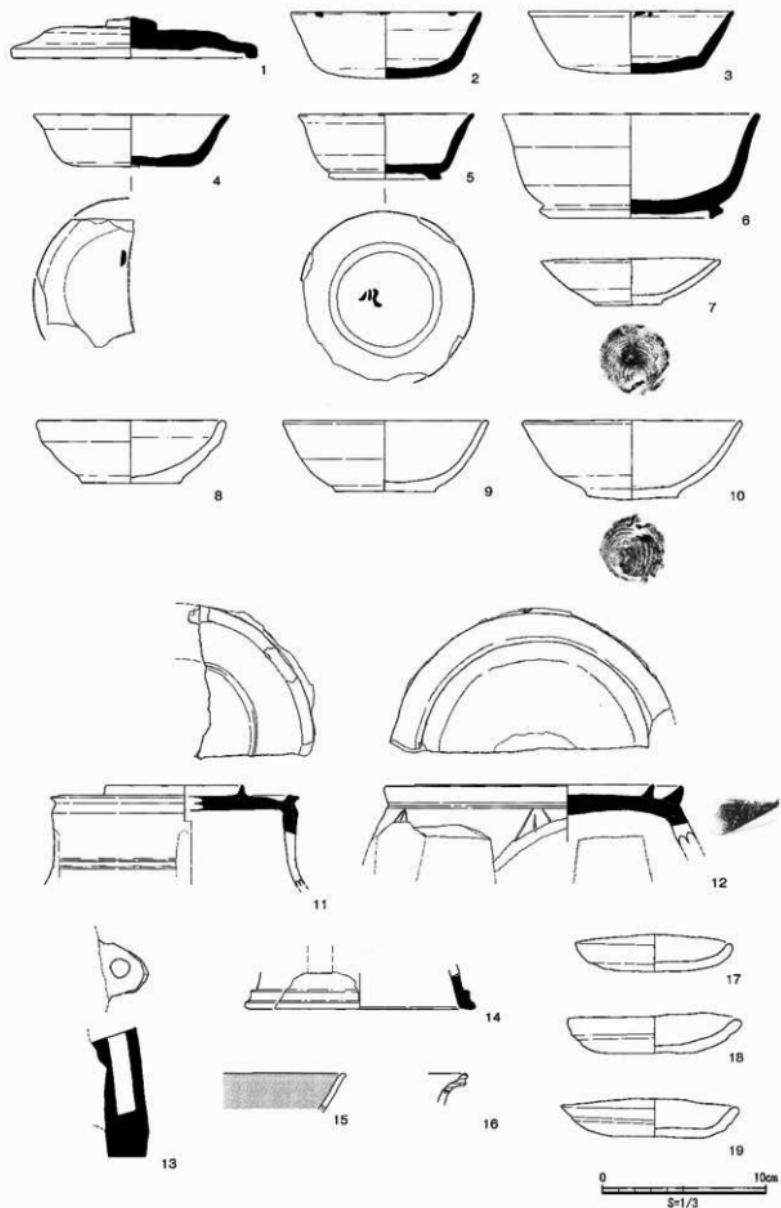
出土遺物

牧野地区から出土した遺物は、縄文後期・古墳・古代・中世の遺物が出土している。出土遺物はコンテナ12箱を数え、古代の遺物が大半を占める。官衙の要素を持つ遺物や瓦なども出土し、越中国府の各建物にかかる遺物も出土している。出土した遺物のうち、主要な遺物を下記に報告する。

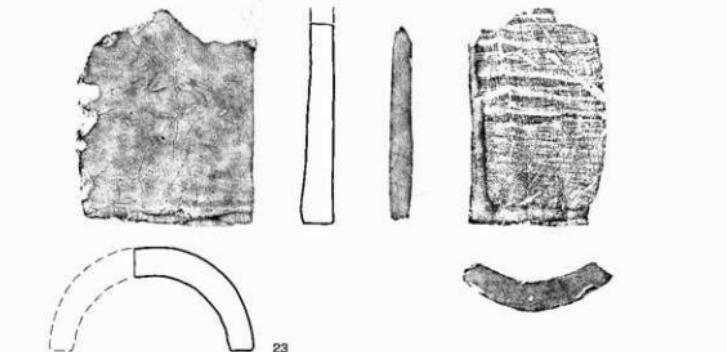
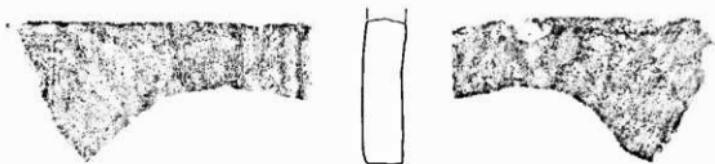
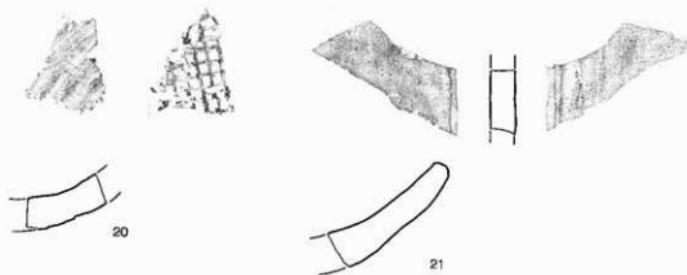
1～6は須恵器で、そのうち4・5は墨書き土器である。1は蓋で、扁平なツマミを持ち、全体的に肥厚である。底面に墨痕が残り、転用硯として使われている。2～4は杯Aである。2は底部からゆるやかに立ち上がり、口縁部は丸く仕上げられる。3は底部から直線的に立ち上がり、口縁部は弱く外反する。2・3双方ともに口縁に部分的にタールが付着する。4は口縁部全体を弱く外反する。外底面の上部に墨痕が確認できる。5・6は杯Bである。5は口縁部は上外方にのび、口縁部は丸く仕上げられる。外反する貼付高台を有す。外底面の中央に「川」と1文字墨書きされる。6は器高が高く、口縁部はゆるやかに外反し丸く仕上げられる。高台は強く張り出した内端部のみが接地する。7～10は土師器である。7は皿、9・10は碗、8は焼かないし皿である。いずれも底面は回転糸切り痕が残る。7は平高台風の高台をもつ。8は器高が低く、口縁部は肥厚で丸く収める。9・10は回転糸切りして角を残す。11～14は円面鏡である。11は鏡面がやや凹面になる。陸部と海部の間に細く上方に延びる内堤があり、外堤は外上方に延びる。脚部には2条の沈線の文様が付き、細い長條円状の透し孔が直交4箇所にある。B区溝SD03の埋土中から出土した。12は鏡面が凸面になる。陸部と海部の間に太い内堤があり、内堤・外堤ともに外上方へ短く延びる。脚部には台形状の透し孔とヘラ状工具により書かれた上方向の矢印ないし、三角状の記号が刻まれる。透し孔は4ないし6箇所と想定される。掘立柱建物SB01の柱穴SK07から出土した。円面鏡の年代に関しては、11は9世紀前半ごろ（IV 1～2期）、12は8世紀中～後葉（III～IV 1期）に比定される。14は硯の脚部である。底径は推定値だが2段の段を回し、幅約15cmのタテ方向の透かしが残る。14は硯の脚部である。外側は継に面取りがされ、脚部の中央に筆立てと考えられる穴が穿孔される。上面はナデで仕上げる。脚底部全体に自然釉が施釉されることから、脚部を上に向けて焼成している。類似するものは富山市西金屋遺跡の灰原から出土している（富山市考古資料館 1996・小栗 2003）。15は綠釉陶器の椀・皿類である。青灰色の硬陶で、釉は深緑である。16は灰釉陶器の壺・瓶の口縁部と考えられる。17～19は中世土師器の皿である。いずれも非ロクロ成形で、おおむね12～13世紀のものである。

古代の瓦は、平瓦と丸瓦が出土している。凸面の方形の格子叩き目を特徴とする御亭角式と、凸面をナデや削りで調整する越中国分寺式の両方が出土している。出土傾向は越中国分寺式の比率が高く、軒瓦は確認していない。20～22は平瓦、23は丸瓦である。20は御亭角式の平瓦で、凸面は方形の格子叩き目が重複して残り、凹面は布目痕が残る。凸面は格子間の幅が広く、西井分類（古岡・西井 1987）A 4叩き目に類するものと考えられる。21は焼成は良好な平瓦で、凸面はナデや削りで調整、凹面は布目痕が残る。端部調整は側縁と凹面を調整している。22は灰白色で焼成が不良な平瓦である。凸面は繩叩き目が残り、離れ砂の使用がみられる。凹面は布目を残し、側縁と凹・凸面は調整される。23は黄灰色の焼成良好な丸瓦である。凸面はナデで調整され、凹面は側縁部は面取りを行い、その他は布目痕が残る。凹面の布目痕の中に、布のとじ目や模骨痕が残る。洗浄中にも平瓦・丸瓦が確認できることから、一定量の瓦の出土が推定される。

各遺物の時期から、須恵器は田島編年V 2～VI期ごろ、土師器はV期以降の土師器碗が多量に出土している。中世土師器は12～14世紀の土師器が多く出土している。平成26年度に本格的な整理作業を行い、報告書刊行を予定している。



第8図 越中国府間連遺跡（牧野地区）遺物実測図1



0 5 10cm
S=1/4

第9図 越中国府間遺跡（牧野地区）遺物実測図2

小結

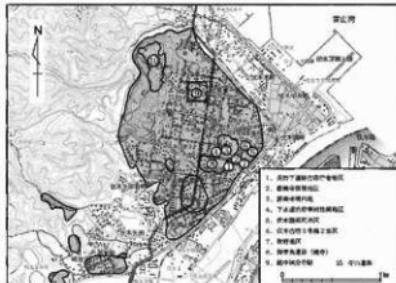
本地区では越中国府に関係する掘立柱建物の柱穴の構造が明らかとなった。以前から勝興寺南接地区で建物が検出されていたが、遺構を発掘調査は本地点が初めてとなった。以下、本地点の建物の特徴等を挙げてゆく。

本地区では、大きく2つの時期の遺構が確認されている。1時期目として、大きな隅丸方形などの平面プランを持つ掘立柱建物SB01・02が存在する。柱穴の構造は平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈す。検出面からの深さは約70cmと深く、柱痕跡が確認できる。礎石・根石等は確認できない。遺構底部より柱のあたりが確認され、柱通りが良い掘立柱建物であることがわかる。時期は柱穴の遺物から、8世紀中葉以降を初端としてその後数回建て替えることが柱穴の断面から推定される。西側は大型掘立柱建物は確認されず、同軸の溝状遺構が数条検出された。建物の軸に溝が併行していることから、区画溝の性格が考えられる。

その後、2時期目に9世紀後半以降に口径約30cm程度の柱穴を持つ掘立柱建物SB03・04が存在する。SB03・04などの小規模な掘立柱建物が検出された。柱穴からの出土遺物は土師器が大半を占めることと、SB01・02と軸が大きく東へ振ることが特長である。建物規模は小規模で柱筋の通りも悪く、建物軸も一定でない。

一般的に官衙遺跡と認定される要素のうち、最低でも5つ以上当てはまり官衙遺跡に該当する。柱穴の規模は一辻1m以上の方形状であること、遺物の面からは柱穴の埋土から円面鏡が出土したこと、また出土する土器のうち、食器類が大勢を占めることなどが理由である。本地区の1時期目の建物は、勝興寺南接地区で検出された大型の建物群(SB01他)とはほぼ同じ方位軸で建物が存在すると考えられる。これらの遺構も含めて一帯に事務を執り行う公的な施設の存在が推定される。越中で検出された古代の建物の多くは礎石が検出されておらず、本地区においても礎石の痕跡はみられない。過去に越中国分寺跡の発掘調査にて根石が検出されており(富山県教育委員会1967)、柱の構造と礎石・根石の有無は今後の遺構の性格を判断する重要な視点になるとと考えられる。

遺物の面から見ると、本地点の古代瓦の出土量はコンテナ0.5箱程度であり、御亭角廃寺や越中国分寺の出土量に比べると非常に少ない。前述した勝興寺南接地区とは瓦の出土量、出土遺物の組成が類似し、かつ建物の方向軸や柱穴の規模も同様の傾向があることが指摘できる。越中国府関連遺跡の中でも高級陶器が出土する地区は現状は限られる。綠釉陶器や灰釉陶器、白磁など全てを確認できる地区は国府関連の施設の所在の可能性が高く、かつ綠釉陶器が出土する場所は大型建物などに伴う事例が多い。反面、伏木台地の主要な地区・地点では、古代瓦片が採取されていることが、先学の踏査や開発に伴う確認調査を通じて判明している。現在、包含層や溝から土師器片が多量に出土していることから、今後の遺物整理で明らかにしてゆきたい。



第10図 調査地点位置図

調査地名	古代の構築	跡地内高さ	柱穴の大きさ	門限界	南北距	南北土留壁	柱穴回数	Inglewood	合総	南北土留	東西土留	参考
1 勝興寺下王跡 (古市小字) (2次作跡・塔柱台)	●	●	★	●	●	●	●	●	●	●	●	参考1967
2 猿飛寺南接地区	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	参考1967
3 勝興寺内地		○										参考1967
4 下木立山古墳陪塚周辺	▲	●							●	●		参考1964、井田2002
5 大正鉱業社丸ヶ原	●	●	●	●						●	●	参考1965
6 伏木台地古墳群	●	●	●	●						●	●	参考1965
7 伏木地区 (通称古墳群)	●	●	●	●						●	●	参考1962
8 御亭角遺跡 (廢寺)	土坑 (根石)・溝	★	★									大型施設群
9 越中国分寺跡 (廢寺)	土坑 (根石)・溝	★								●		参考1967
10 3号道路 (弘法神社)	▲	●										参考1965

★発掘調査で多量に出土するもの ●発掘調査で確認できるもの ○表揮・伝世品があるもの
表2 遺構が検出された調査地点における出土遺物相成

第3章 その他の遺跡調査

1. 桜谷古墳群（瀧田地区）

所在地 高岡市太田 33番地3

調査期間 平成24年4月8日

対象面積 439.88 m²

試掘坑 2本

発掘面積 9 m²

調査原因 農家用納屋建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

桜谷古墳群は昭和9年に国指定史跡となった古墳群であり、古墳時代前期から後期まで存続したとされる。往時は十数基の古墳で構成されていたが、現在は3基が残存するのみであり、他墳丘の位置などは不明である（山口1999）。

今回の調査対象は2号墳の南西に位置する。平成7年度の調査により土坑が検出された地点と隣接している。2本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、両トレンチとともに現地表面から約40cmで地山を検出した。遺物・遺構とともに検出できなかった。



第11図 桜谷古墳群（瀧田地区）位置図

2. 越中国府関連遺跡（南地区）

所在地 高岡市伏木古国府 6 - 7

調査期間 平成 24 年 4 月 9 日

対象面積 205.71 m²

試掘坑 1 本

発掘面積 9.15 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

越中国府関連遺跡は、伏木台地上に所在し、古代において国府や国分寺などがおかれたものと推定される遺跡である。市街地化により明確な官衙施設の検出は少ないものの、県内を俯瞰しても古代瓦の出土（消費地）が正倒数を占めており、上述の想定を裏付けるものと理解されている（根津 2009 他）。

今回の調査対象は、同遺跡の東部に位置する。付近は小字「絹屋下」ないし「東館」と比定される。本地点の試掘調査は計 1 本のトレーンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、現地表面から約 35 cm で地山を検出した。遺物・遺構ともに検出できなかった。

地山には以前建設されていた住宅工事の痕跡が残っていた。また、周辺地形を鑑みても削平されていると推測できる。



第 12 図 越中国府関連遺跡（南地区）位置図

3. 石名瀬A遺跡（新開地区）

所在地 高岡市和田 744-1

調査期間 平成 24 年 4 月 18 日

対象面積 314 m²

試掘坑 2 本

発掘面積 20 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 土坑 2 基

出土遺物 なし

調査概要

石名瀬 A 遺跡は、佐野台地上に所在する。過年度の大規模調査により弥生時代中期から古墳時代前葉を中心とする堅穴建物址群や方形周溝墓、玉製作遺構、布掘構造の掘立柱建物などの遺構や同時期土器類が多量に出土した。古代においては人面墨書き土器や祭祀関連遺物が出土しており石塚遺跡群の主要な祭祀場と推定される（高岡市教委 2012）。

今回の調査対象地は、同遺跡南西部に位置する。計 2 本のトレンチを配し調査を行ったところ、遺物は出土しなかったものの、現地表面下 100cm 前後の地点にて地山（遺構確認面に同じ）と土坑 2 基を検出した。これらは 17 年度調査区で検出された遺構と同種の土層を呈しており、当該地にまで遺構群の所在が及んでいるとみられる。



第 13 図 石名瀬 A 遺跡（新開地区）位置図

4. 井口本江遺跡（秋山地区）

所在地 高岡市出来田 320-1, 320-2

調査期間 平成24年5月9日

対象面積 700 m²

試掘坑 1本

発掘面積 5 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 縄文土器、土師器、須恵器

調査概要

井口本江遺跡は、祖父川左岸に位置する縄文時代から近世までの複合遺跡である。同遺跡を含む周辺は古代において東大寺領鳴戸荘（木倉・金田説他）や庵庭荘（和田説）が比定されているが、遺跡南方では古代の官衙的様相をしめす円面鏡や施釉陶器が出土し、周辺にはこの様相の広がりを想定しうる状況にある。現地は湿地状を呈する自然環境にあり、縄文後晩期の傾向とも一致する。

調査対象地は南部東端の隣接地にあたる。対象地中央に計1本のトレンチを配し地下の状況把握につとめ、現地表面下約50cm、標高9.0m程度で基盤層（地山）を検出した。

遺構及び明確な包含層は検出されず、後世の搅乱を確認するのみであった。出土遺物は、地山直上の黒褐色土層より縄文土器（後晩期か）のほか、土師器や須恵器片が出土した。



第14図 井口本江遺跡（秋山地区）位置図

5. 瑞龍寺遺跡（赤井地区）

所在地 高岡市上関町 505 - 3

調査期間 平成 24 年 5 月 1 日

対象面積 297 m²

試掘坑 1 本

発掘面積 30 m²

調査原因 集合住宅建設

検出遺構 土坑 3 基、溝 5 条

出土遺物 珠洲、中世土師器、肥前陶磁

調査概要

本地点は、国宝・瑞龍寺法堂の西方約 60 m の地点にあり旧境内地に該当する。近隣地区では礎石建物の痕跡と考えられる栗石様の礎群や、局地的な焼瓦の出土する地点がある。

対象地中央に計 1 本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたところ、現地表下約 40cm で遺物包含層を、同 50 ~ 60cm (標高 9.5 m 付近) にて地山を検出した。上記地山上面をもって精査をしたところ、土坑 3 基、溝 5 条を検出したほか、珠洲のすり鉢と甕、そして中世土師器などを検出した。遺物が中世の時期に限定されることから、平成 8 年度の調査区等で検出された近世瑞龍寺以前の中世の様相が本地点にも広がることが判明したことが挙げられる。



第 15 図 瑞龍寺遺跡（赤井地区）位置図

6. 瑞龍寺遺跡（岩佐地区）

所在地 高岡市上関町 501番 10

調査期間 平成 24 年 7 月 24 日

対象面積 156.51 m²

試掘坑 1 本

発掘面積 8.25 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

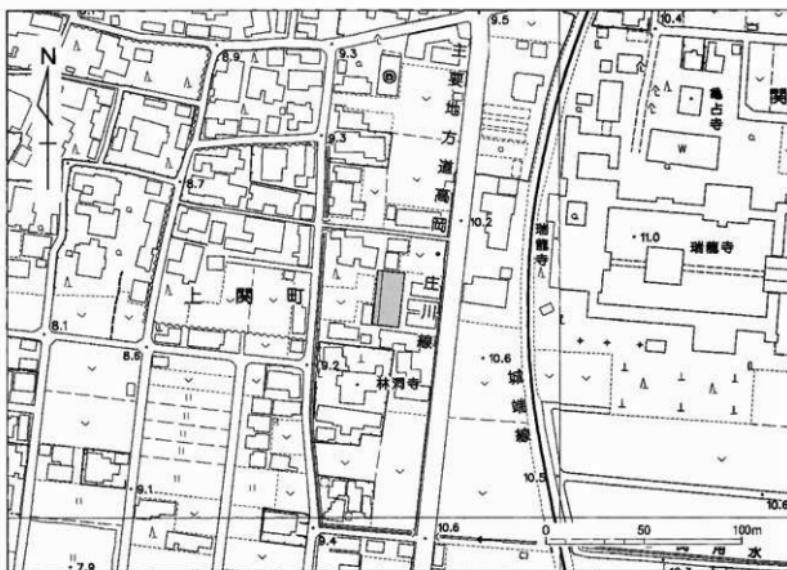
出土遺物 近世瓦

調査概要

本地点は、国宝・瑞龍寺の旧境内地の南西に該当する。近隣地区では礎石建物の痕跡と考えられる栗石様の礎群や、局地的な焼瓦の出土地点が存在している。

調査は、対象地の中央に計 1 本のトレーナーを配し、地下の状況の把握につとめた。その結果、現地表面から約 30cm で黒褐色砂質土を、同約 60cm で（標高約 9.6m）地山を検出した。

遺構は検出されなかった。遺物も黒褐色砂質土から近世瓦片 1 点が出土したが、出土状況より他地点からの流入物と考えられる。

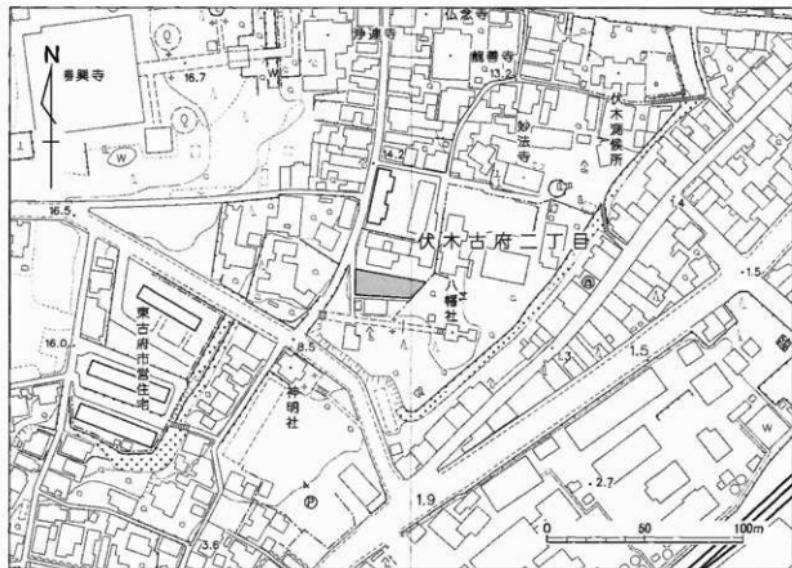


第 16 図 瑞龍寺遺跡（岩佐地区）位置図

7. 越中国府関連遺跡（牧野地区）

所在地	高岡市伏木古府2丁目7番地
調査期間	平成24年5月23日～24日
対象面積	499 m ²
試掘坑	2本
発掘面積	約35.8 m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	溝2条、土坑2基、ピット22基
出土遺物	古代丸瓦、須恵器（蓋・壺・甕）、古代土師器（壺・甕）、中世土師器
調査概要	

本地点は勝興寺から南東側に500mの距離にあり、遺跡の南東部に位置する。隣接する古府八幡社の境内地内（東館遺跡）からは、過去に古代瓦が出土しており、古代の官衙施設が所在したことがうかがえる。また、中世の『義経記』をもとに当該地に如意窓に比定する伝承もある。対象地中央部に計2本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、現地表面下約10～30cm、標高約11.9～12.3mにて遺構を検出した。出土遺物は国府最盛期（8～10世紀）と中世後半のものが出土した。遺物の多くは9～10世紀を中心で、食膳具が多数を占めることから官衙施設の特徴と合致する。上述の古代丸瓦とともに周辺における古代官衙施設の所在が検討される。本年度に本調査を実施し、詳細な遺跡概要と調査報告を第2章に掲載している。



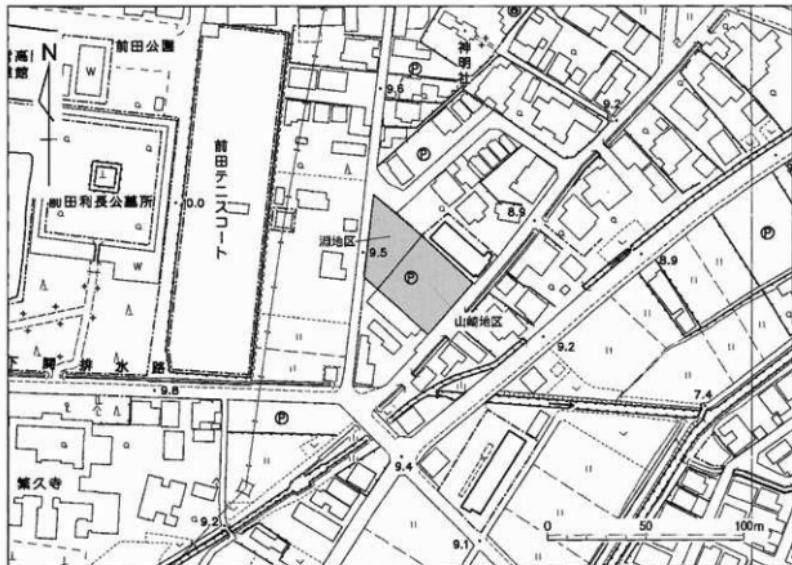
第17図 越中国府関連遺跡（牧野地区）位置図

8. 前田墓所遺跡（山崎地区、淵地区）

所在地	高岡市大野 133 番 1、高岡市大野 133 番 2
調査期間	平成 24 年 7 月 12 日～13 日、9 月 27 日～28 日
対象面積	1,046.11 m ² 、836.1 m ²
試掘坑	3 本、2 本
発掘面積	56 m ² 、72.5 m ²
調査原因	集合住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし
調査概要	

本地点は、前田利長墓所の内区から東偏約150m、外堀から約60mに位置する。また、古代における東大寺領鳴戸庄の比定地（金田説）でもあり、開田図に図示される「三宅」の周辺地の可能性が指摘される（根津2007）。

山崎地区の試掘調査は、対象地に東西方向に計3本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたが、いずれも遺物の出土はなかった。最も北側に位置する第1トレンチでは、後世の搅乱や盛り土が確認され、明確な地山や包含層は確認できなかった。この南側に設定した第2・3トレンチでは坑内東側にて黒褐色土の落ち込みが確認され、第3トレンチでは地表面下約60cm、標高約8.7m付近にて地山を検出している。灘地区的試掘調査は、計2本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、地表面下約30~40cm、標高8.9m付近にて地山を検出した。遺構、遺物とも出土はなかった。トレンチ北東側は、後世の搅乱と消雪パイプの掘削で破壊されていた。



第18図 前田墓所遺跡（山崎地区、淵地区）位置図

9. 牧野金屋遺跡（堀田地区）

所在地 高岡市金屋字世戸 638 番 17、640 番 10、高岡市姫野字反完免 1171 番 3

調査期間 平成 24 年 8 月 17 日

対象面積 388.18 m²

試掘坑 2 本

発掘面積 23.5 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

牧野金屋遺跡は弥生～奈良時代と中世・近世の散布地とされる。遺跡の西側に西神楽川（古神楽川）が推定され、自然堤防上に立地する。分布調査の他は今回まで特に発掘調査の機会はなく、詳細は不明のままであった。

本地点の試掘調査は計 2 本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、本地点は旧河川または湿地帯であることが確認できた。

隣接する中曾根館遺跡の調査結果からも湿地状の地形について指摘されているため、本地点にも広がっていると考えられる。



第 19 図 牧野金屋遺跡（堀田地区）位置図

10. 下老子笹川遺跡（砂浦地区）

所在地 高岡市福岡町下老子 352

調査期間 平成 24 年 9 月 14 日

対象面積 910.36 ㎡

試掘坑 2 本

発掘面積 58.5 ㎡

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

下老子笹川遺跡は、庄川扇状地扇端部に位置する。能越自動車道と北陸新幹線の建設にともなう発掘調査の結果、弥生時代後期～古墳時代の集落や水田などが検出された（富山県文化振興財団 2006）。多量の土器類の他に玉作に関連する遺物や木製品が出土しており、地域の拠点となる集落と考えられている。

本地点は能越自動車道福岡 PA から南西約 1.2km、遺跡の南側に位置する。過年度の調査から、弥生時代後期～古墳時代の集落や水田の存在が検出される。

本地点の試掘調査は、対象地の東西に試掘坑を 2 本設定し、地下の状況の把握につとめたところ、2 本の試掘坑から約 60～70cm 下の標高約 18.0 m 付近にて地山を検出した。2 本の試掘坑からは遺構、遺物とともに検出されなかつた。



第 20 図 下老子笹川遺跡（砂浦地区）位置図

11. 越中国府関連遺跡（満田地区）

所在地 高岡市伏木東一宮 867 番 1

調査期間 平成 24 年 10 月 4 日

対象面積 495.22 m²

試掘坑 2 本

発掘面積 約 31 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

本地点は旧一宮村に所在し、推定越中国分寺跡から東に約 250 m、勝興寺から北に約 500 m にあたる。本地点付近は字「鹿」こと比定される。過去に本地点の道路を隔てて東側の隣接地にて試掘調査を実施したが、遺構・遺物とともに確認されていない。

試掘調査は対象地に計 2 本の試掘坑を配し地下の状況の把握につとめたが、いずれも遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。



第 21 図 越中国府関連遺跡（満田地区）位置図

12. 中木津遺跡（上野地区）

所在地 高岡市木津 1008 番 1

調査期間 平成 24 年 9 月 21 日

対象面積 927.18 m²

試掘坑 2 本

調查面積 約 108 m²

調查原因 個人住宅建設

检出遗构 柱穴8基、溝3

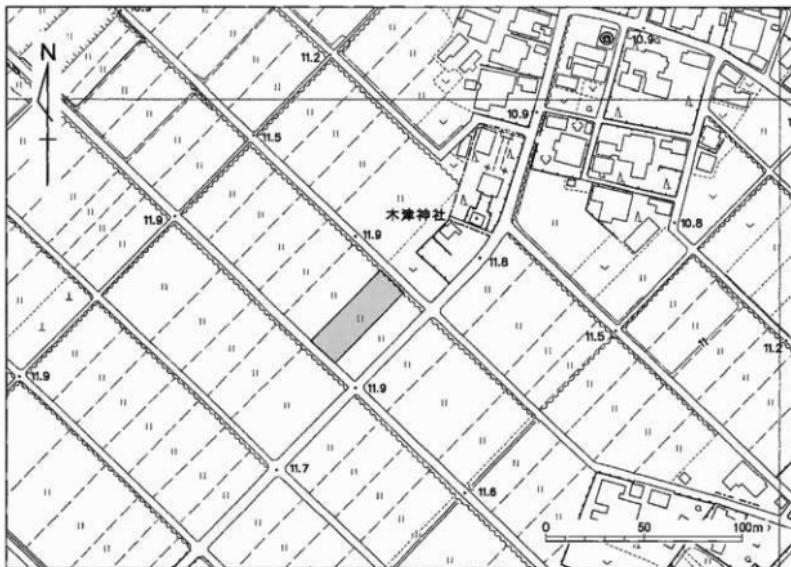
出土遺物 繩文土器、肥前陶器

調查概要

中木津遺跡は、平成21年に木津神社遺跡を名称変更した遺跡である。平成21年より高岡市教委による区画整理に伴う本調査が実施され、古代～中世の掘立柱建物など集落が検出されている（高岡市教委2012）。

本地点は、遺跡の木津神社から南西約50mに位置する。調査は対象地の南北に計2本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたところ、2本の試掘坑では現地表から約30cm下の標高約11.3m付近にて地山および遺構面を検出した。

該当地中央に配した第1トレンチでは柱穴2基と溝3条を検出した。溝3条のうち2条は近世以降の擾乱であることを確認した。その後、遺構の広がりを確認するため、南側に第2トレンチを配したところ、柱穴6基と第1トレンチから続く溝が検出された。両トレンチとも遺構に関する遺物の出土はなかったが、集落がより南西側に広がることが明らかになった。



第22図 中木津遺跡（上野地区）位置図

13. 中木津遺跡（寺西地区）

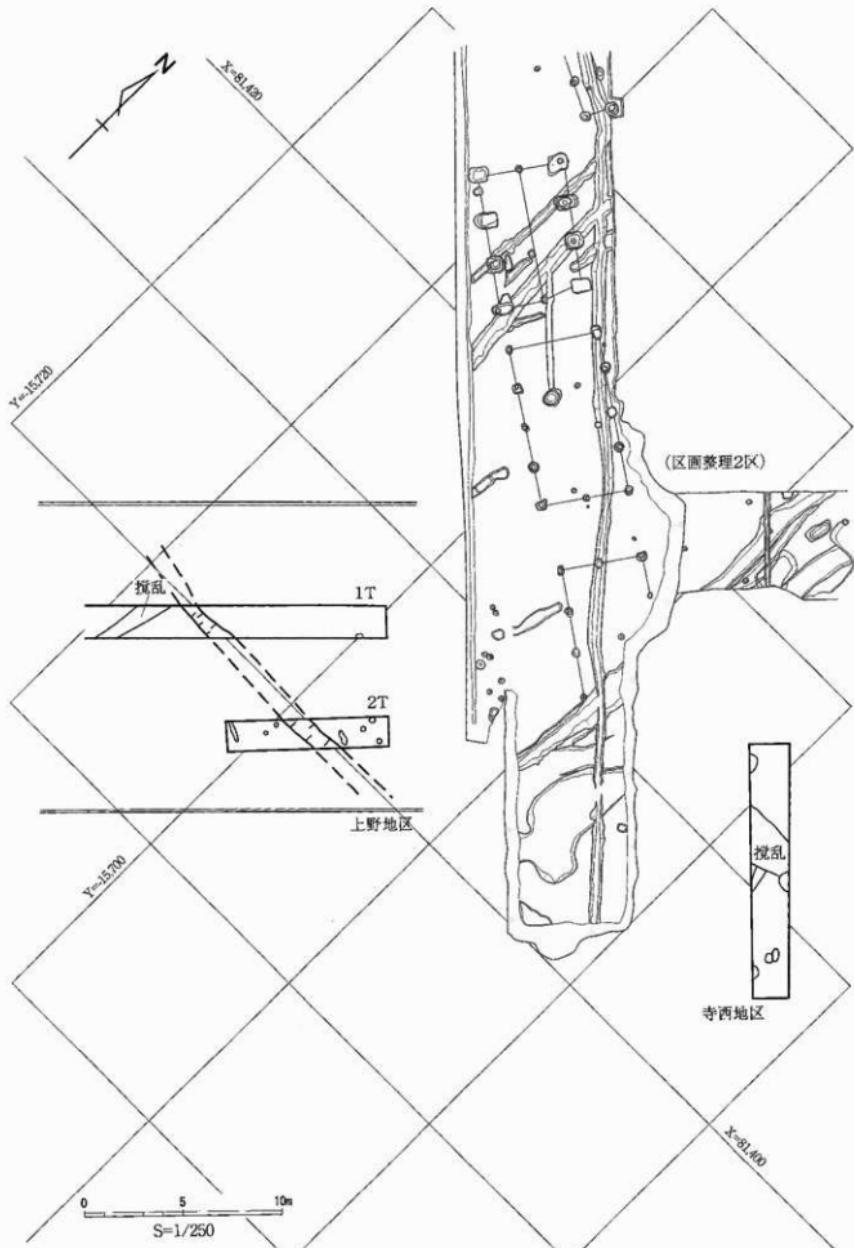
所在地	高岡市木津 41- 4
調査期間	平成 25 年 3 月 7 日
対象面積	244 m ²
試 挖 坑	1 本
調査面積	約 25 m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	柱穴 1 基、土坑 3 基、溝 1 条
出土遺物	古代製塙土器

調査概要

今回の調査区は木津神社にほぼ南接する。試掘調査は対象地に 1 本のトレンチを設定し、地下の状況の把握したところ、試掘坑から柱穴 1 基と土坑 3 基、溝 1 条を検出した。遺物は、古代の製塙土器片が出土した。調査地中央に北西 - 南東方向に設定した第 1 トレンチの南東側では、地表面下約 60cm、標高約 11.0 m 付近にて地山（遺構検出面と同じ）を検出した。北東側は造成の盛土の影響で地表面は 20cm ほど厚い。遺構は柱穴 1 基と土坑 3 基、溝 1 条が検出した。遺物は古代製塙土器片が出土した。遺物は黒褐色砂質土（耕作土・包含層）から出土している。南接する地区で検出された掘立柱建物の広がりがさらに木津集落方向へ広がることが考えられる。



第 23 図 中木津遺跡（寺西地区）位置図



第24図 中木津遺跡（上野・寺西地区）概略図

14. 麻生谷遺跡（村田地区）

所在地 高岡市麻生谷 388

調査期間 平成 24 年 11 月 28 日

対象面積 1159.28 m²

試掘坑 1 本

発掘面積 26 m²

調査原因 個人住宅建設

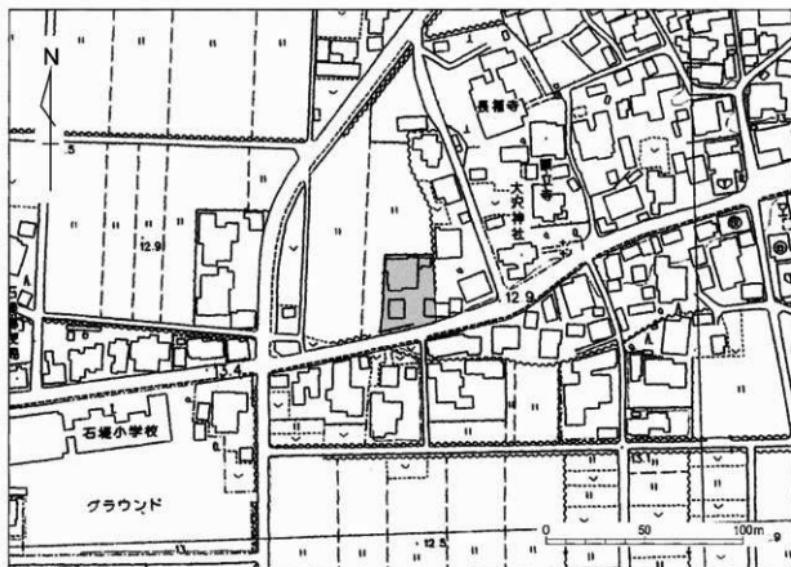
検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

本地点は麻生谷遺跡南側の隣接地にあたる。谷内川に沿う谷地には延喜式内社の本家論争がある浅井神社が所在し、複数の遺跡が山麓に確認されている。過去 3 度の本調査の結果、県道 32 号線周辺にて古代の掘立柱建物群や井戸などの集落・官衙や中世の集落が検出されている（高岡市教委 1997）。

試掘調査は、対象地の南北方向に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況の把握につとめたところ、現地表約 80cm 下の標高約 123 m 付近にて青灰色砂質土を確認した。この状況は昨年の流森地区と同様であった（高岡市教委 2012）。明確な地山は検出できず、遺物、遺構ともに検出できなかった。



第 25 図 麻生谷遺跡（村田地区）位置図

15. 中川遺跡（嵯峨地区）

所在地 高岡市中川1丁目108番・109番
調査期間 平成24年10月12日
対象面積 707 m²
試掘坑 2本
発掘面積 195 m²
調査原因 墓地建設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査概要

中川遺跡は、高岡台地北側の定塚にあたり古くから縄文時代の遺跡として知られる。本地点の北西、光慶寺地区にて縄文土器などの遺物が確認されている（高岡市教委2006）。

現地を観察すると北側に向かい標高が低くなるが、後世の整地盛土が高く積まれている。本地点の試掘調査は、対象地の南北に計2本のトレンチを配し地下の状況の把握につとめたところ、地表面から約40cm下の標高約7.2m付近にて遺構面を検出したが、遺構・遺物とも確認できなかった。



第26図 中川遺跡（嵯峨地区）位置図

16. 鶯北新遺跡（あかね会地区）

所在地 高岡市鶯北新字村上 174 番 1、178 番 1、179 番 1、182 番 9、184 番 1・2、185 番 1

調査期間 平成 24 年 10 月 18 日～19 日

対象面積 1,824 m²

試掘坑 4 本

発掘面積 約 216 m²

調査原因 福祉施設建設

検出遺構 土坑 7 基、ピット 38 基、溝 7 条

出土遺物 弥生土器甕、古墳時代土師器、古代須恵器蓋・甕、古代土師器皿、中世土師器、時期不明土師器

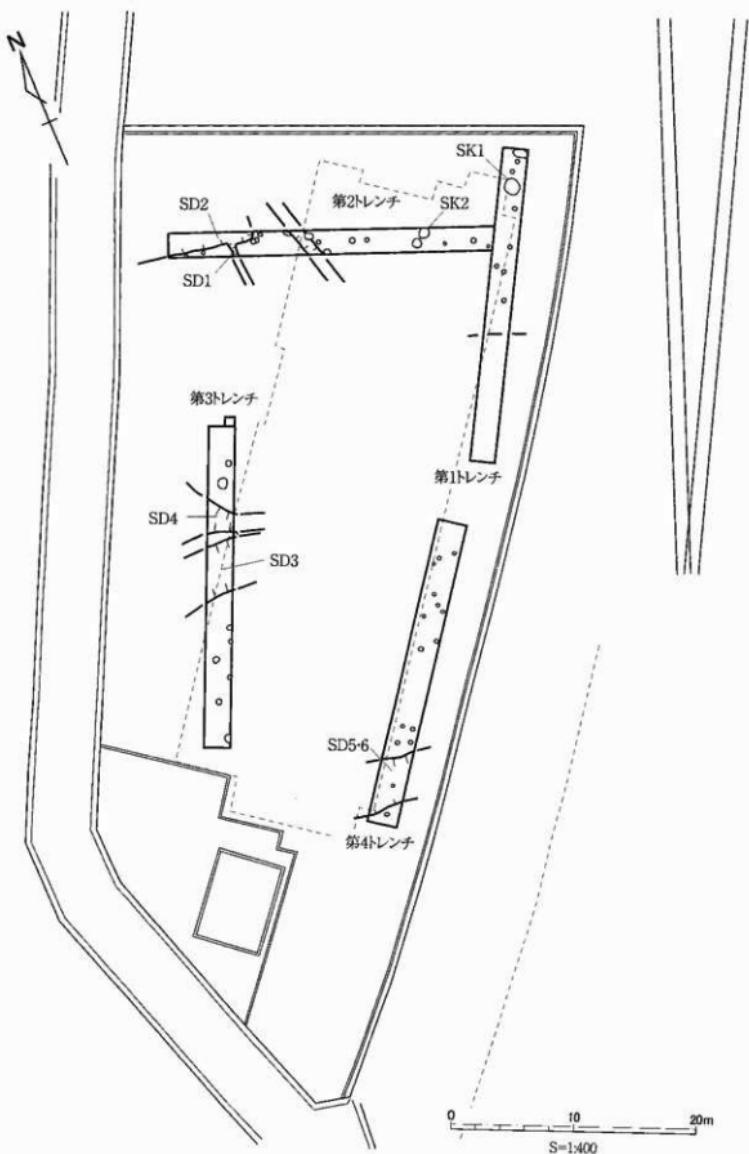
調査概要

本地点は遺跡の南側にあたり、過去には本地点より西側の調査にて弥生～中世の集落が検出されている（高岡市教委 1998）。本地点の試掘調査は南北に計 4 本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたところ、4 本すべての試掘坑で、地表面から約 20～50cm 下の標高約 4.5 m 付近にて遺構面と遺構を検出した。

結果として弥生後期～古墳前期、9 世紀以降から中世前半の遺物・遺構が確認された。第 1・2 トレンチにてピットや土坑が多く検出され、調査区南側は幅員の広い溝などを検出した。南側の溝からは弥生土器が出土している。調査区全体において遺構の広がりが確認された。25 年度には当該地区において本発掘調査が実施された。その結果、弥生後期～古墳前期の方形周溝墓状の溝状遺構などが検出されている。



第 27 図 鶯北新遺跡（あかね会地区）位置図



第28図 鶴北新遺跡（あかね会地区）概略図

17. 鶯北新遺跡（NTC地区、西川地区）

所在地	高岡市能町駅南 19-1、能町駅南 19
調査期間	平成 24 年 11 月 8 日、平成 25 年 3 月 15 日
対象面積	170.7 m ²
試掘坑	1 本
発掘面積	3 m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	ピット 1 基（NTC 地区）
出土遺物	なし

調査概要

鶯北新遺跡は小矢部川と旧庄川の合流点より南側の微高地に位置する。古代末～中世に成立した河口保にあたると考えられる。過年度の調査では弥生～中世の集落跡が検出されており、平成 8 年度調査地点の南側にあたる。

NTC 地区の試掘調査は、対象地の東西に 1 本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたところ、地表面から約 60cm 下の標高約 4.8m 付近にて遺構を検出した。検出した遺構はピット 1 基、溝 1 条である。遺物の出土はなかった。溝の一部を掘削したところ遺物の出土はなかったため、自然流路であると判断した。

西川地区的試掘調査は対象地に 1 本トレンチを設定し地下の状況の把握したところ、試掘坑から遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。地表面下約 70cm、標高約 4.8m 付近にて地山を検出した。土層は造成の盛土が 30cm ほど、その下に旧耕土が存在する。



第 29 図 鶯北新遺跡（NTC 地区、西川地区）位置図

18. 三ヶ遺跡（三興土木地区）

所在地 高岡市三ヶ 252番1、253番1、254番1

調査期間 平成24年10月24日～26日

対象面積 9,653 m²

試掘坑 4本

発掘面積 580 m²

調査原因 土砂採取

検出遺構 ピット5基

出土遺物 繩文土器、弥生土器、肥前陶磁

調査概要

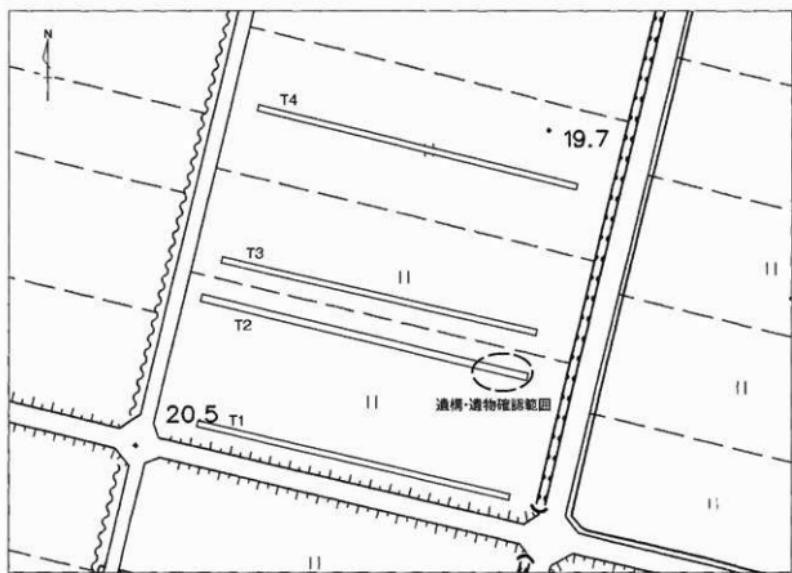
三ヶ遺跡は、庄川が形成した扇状地に立地し、祖父川左岸に位置する。今まで明確な調査歴がなく、分布調査を除けば今回が初の埋蔵文化財調査である。

本地点の試掘調査は、対象地の南北に計4本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたところ、4本のうち1本の試掘坑で、地表面から約20～30cm下の標高約19.4m付近にて遺構面を、それ以外の試掘坑では地山を検出した。比高差はわずかに祖父川に向かって低くなる。

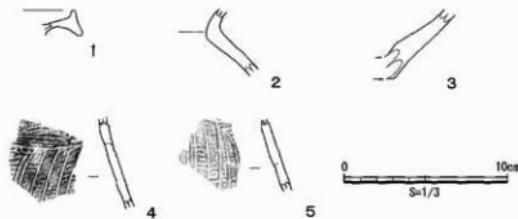
弥生後期～終末期の遺構と、弥生、中世、近世の遺物・遺構が確認された。弥生後期～古墳時代の遺構・遺物は第2トレンチ東側端で柱穴群が検出された。柱穴群は部分的に分布しており、一部列状に並ぶ。いずれも深度は浅いことから上面は削平されている可能性がある。遺物は、縄文後期の深鉢や弥生後期・終末期の壺・盃、中世～近世の肥前陶磁の天目茶碗・碗・小皿が出土した。第32図4、5は弥生後期の天王山式の壺である。



第30図 三ヶ遺跡（三興土木地区）位置図



第31図 三ヶ遺跡（三興土木地区）トレンチ位置図 (S=1/1200)



第32図 三ヶ遺跡（三興土木地区）出土遺物実測図

1～5は弥生土器である。そのうち、4・5は天王山式である。いずれも柱穴から出土した。S P 2からは1が出土し、S P 3からは、2～5の遺物が出土している。1は壺の口縁か。上方と下方にゆるい稜を有し、外側面はヨコナデ調整で赤彩の痕跡が残る。2は壺の底部。内面は不定方向のヘラナデとケズリ、外面はタテハケを施す。3は口縁～体部の屈曲部。内面はヨコ方向のイタナデ、外面は口縁部はヨコナデ、体部上段はタテ方向のイタナデである。外面には黒色の媒が付着する。4は3条の平行沈線による区画文、口縁屈曲部に連弧文と工字文、その下部に地文の縦文に斜状沈線文が施される。5は上部に4と同じように横方向の沈線があり、地文の縦文に斜状沈線文が施される。これらの出土遺物から、第2トレンチで検出されたピット群は弥生後期に帰属すると考えられる。

19. 高美町遺跡（向地区）

所在地 高岡市伏木矢田字上野 4 - 56

調査期間 平成 24 年 11 月 22 日

対象面積 1519.65 m²

試掘坑 7 本

発掘面積 約 6.5 m²

調査原因 集合住宅建設

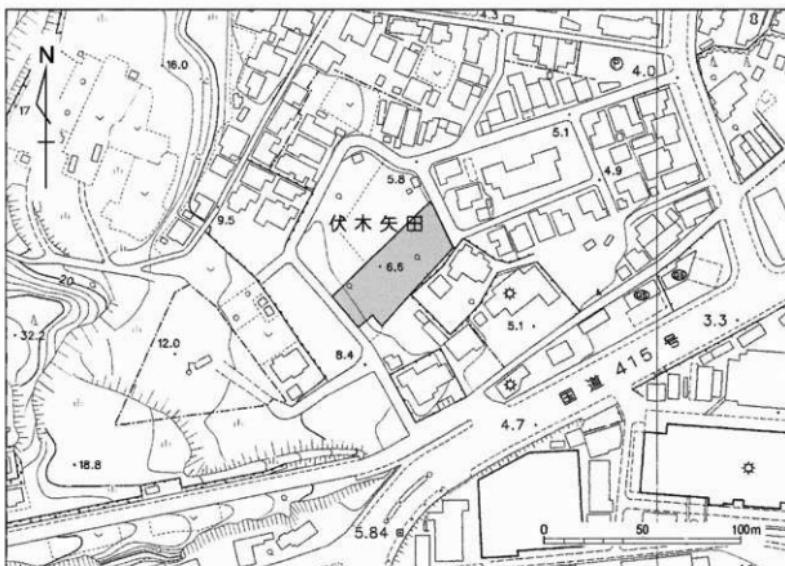
検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

高美町遺跡は、二上丘陵の南東端の小矢部川を望む台地上に位置する。繩文土器や土師器が散布したと報告があるが、現状は土砂探掘により削平されている（高岡市教委 1987）。今回の調査地は本地点は遺跡南東端にあたり、地表面は南西側が高く一旦大きくなつた後、北に向かい標高がゆるやかに低くなる。

遺跡の内容把握及び、範囲の確認を目的として調査を行った。調査は、対象地の地形を把握すべくトレントピット（1 m × 1 m 程度）を 7 本配し、木根の除去をする場所を中心に試掘坑を掘削した。地下の状況の把握につとめたところ、調査区南側では現地表約 20cm 下の標高約 7.8 m 付近にて地山を確認した。調査区中央～北側では現地表約 15 ～ 30cm 下の標高約 6.2 ～ 6.8m 付近にて地山を確認した。いずれの試掘坑からも遺物、遺構は検出されなかった。



第 33 図 高美町遺跡（向地区）位置図

20. 瑞穂町遺跡（ア・ライズ地区）

所在地	高岡市美幸町2丁目185番1・186番
調査期間	平成24年11月12日～14日
対象面積	4,649 m ²
試掘坑	4本
発掘面積	227.75 m ²
調査原因	宅地造成
検出遺構	ピット1基、溝3条
出土遺物	弥生土器、古代須恵器、珠洲、中世土師器
調査概要	

瑞穂町遺跡は小矢部川と千保川（旧庄川本流）により形成された微高地に位置し、式内社速川神社や波岡南遺跡などの波岡遺跡群が北西に隣接している。本地点は、瑞穂町遺跡の北側の隣接地にある。過去の調査から、遺跡中央にて弥生～中世の遺構・遺物が検出され、北側は遺構・遺物とともに確認されていない（高岡市教委2003・2011）。今回は遺跡の範囲の確認及び内容把握、遺構の深度確認を目的として調査を行った。

結果として、第1トレンチにおいて古代～中世の遺構が存在することを確認した。地表面から下に30～40cm、標高7.8～8.1mにて検出面が確認できる。遺構は、南北方向の幅員の大きい溝1条と、東西方向の溝2条を検出した。包含層は確認できず、後世の耕地整理により失われていると考えられる。遺物は弥生・古代・中世・近世の遺物が出土した。



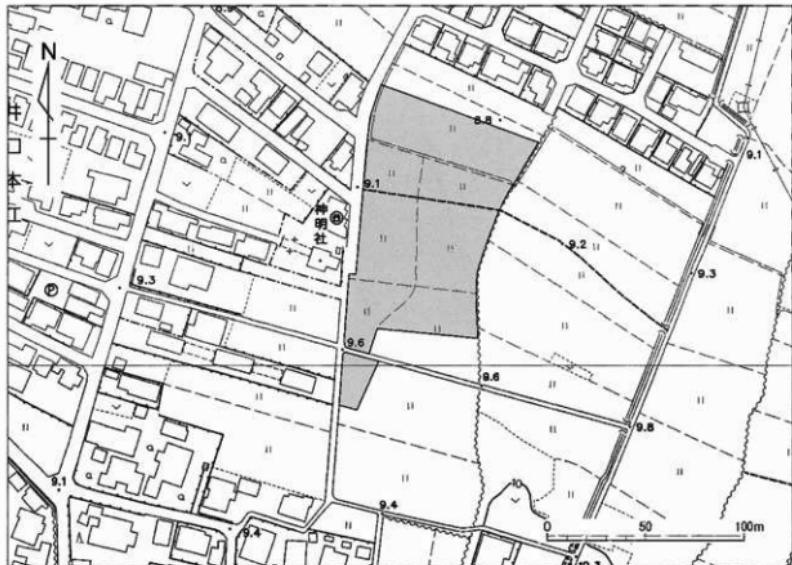
第34図 瑞穂町遺跡（ア・ライズ地区）位置図

21. 井口本江遺跡（再開発地区3）

所在地 高岡市井口本江字千場 282 他 18 筆
調査期間 平成 25 年 2 月 18 日～3 月 22 日
対象面積 5,454 m²
試掘坑 11 本
発掘面積 228.36 m²
調査原因 土地再開発
検出遺構 土坑 1 基、不明土坑 2 基、溝 4 条
出土遺物 土師器、須恵器、珠洲、中世陶器、陶磁器
調査概要

井口本江遺跡は庄川左岸の微高地に位置し、和田川が合流する地点に近い。平成 2 年（1990）の分布調査でその存在が確認された。後に遺跡中央を県道高岡環状線の建設に伴う本調査などが行われ、弥生～中世の集落が検出されている。本地点は再開発に伴う地区のうち北西側に位置し、本年で 3 年目となる（高岡市教委 2011・2012）。

本地点の試掘調査は計 11 本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたところ、うち 5 本の試掘坑で、地表面から約 20 ～ 30cm 下の標高約 8.7 ～ 9.1m 付近にて遺構面を、それ以外の試掘坑では地山を検出した。遺構の分布は南側に顯著に認められ、土坑 1 基、溝 6 条、ピット 2 基などが検出された。包含層は確認できず、後世の耕地整理により失われていると考えられる。遺物は弥生・古代・中世・近世の遺物が出土した。



第 35 図 井口本江遺跡（再開発地区 3）位置図

22. 上二上東遺跡（村上地区）

所在地 高岡市二上町 468-1 ほか2筆

調査期間 平成24年11月21日

対象面積 498 m²

試掘坑 1本

発掘面積 52 m²

調査原因 個人住宅建設

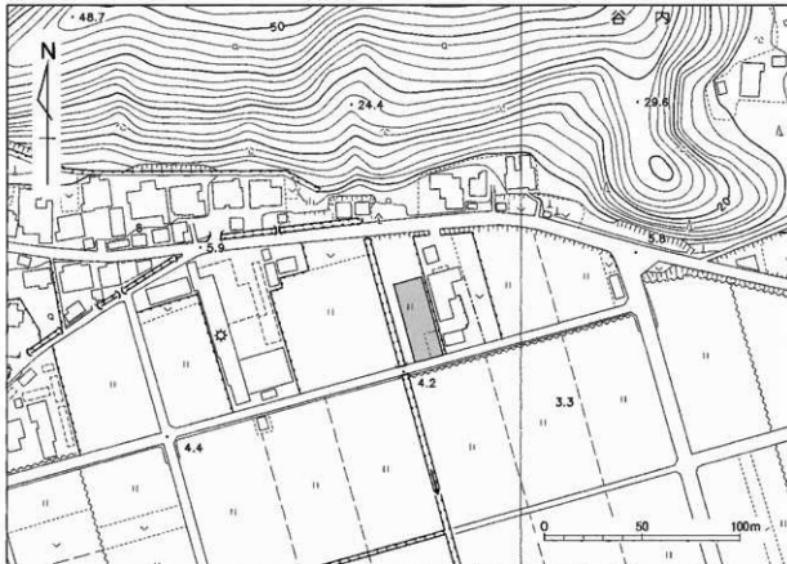
検出遺構 土坑1基、不明土坑2基、溝4条

出土遺物 時期不明瓦、越中瀬戸

調査概要

本地点は上二上東遺跡の南西に位置する隣接地であり、二上丘陵の裾部に位置する。二上射水神社が所在する二上谷内の西側に隣接し、本地点北側に谷地があり、小矢部川に向かって標高が低くなる。

試掘調査は、対象地に南北方向に計1本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたが、遺構は検出されなかつた。遺物は、時期不明の平瓦片、近世越中瀬戸壺が出土した。現状では、出土遺物は周辺からの流れ込みの遺物と考えられる。



第36図 上二上東遺跡（村上地区）位置図

23. 越中国府関連遺跡（山崎地区）

所在地 高岡市伏木古国府 717-2他5筆

調査期間 平成25年2月12日～13日

対象面積 6057.2 m²

試掘坑 4 本

發掘面積 約 80 m²

調查原因 幼稚園建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調查概要

本地点は旧古府村に所在し、勝界寺の北に隣接する台地辺縁部にある。本地点付近は小字「原田」と比定される。過去に本地点の東の台地辺縁部にて1988年に試掘調査を実施し、古代の溝、須恵器・土師器・瓦などが出土している（高岡市教委1989）。

対象地に計4箇所のトレンチを配し地下の状況の把握をしたところ、遺構は検出されず、遺物の出土はなかった。今回の調査により斜面には近世瓦の破片や山砂などの盛土が高く積まれて地形が改変されていること、そして建物工事などで広範囲に破壊されている可能性が高いことが判明した。平成25年度に本地点の敷地南側の試掘を予定している。



第37図 越中国府関連遺跡（山崎地区）位置図

24. 守護町遺跡（黒木地区）

所在地 高岡市守護町2丁目225番

調査期間 平成24年12月28日

対象面積 864 m²

試掘坑 2本

発掘面積 約43 m²

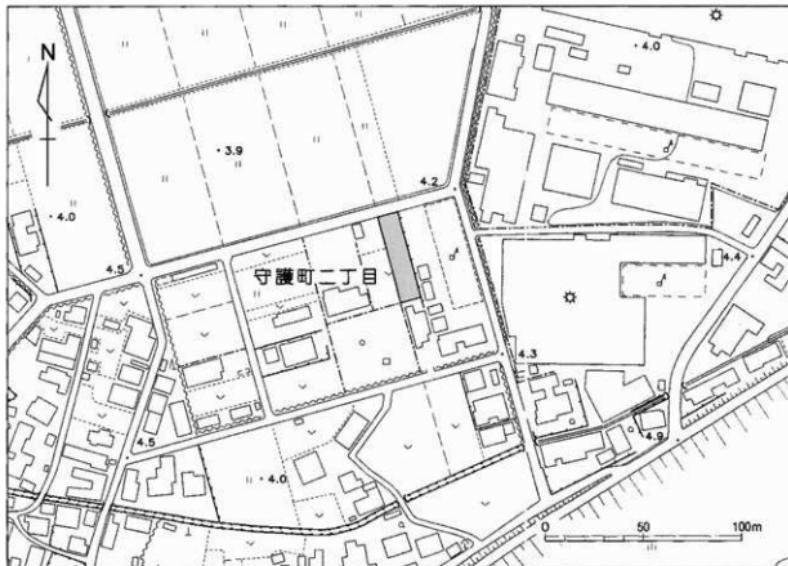
調査原因 駐車場建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

本地点は守護町遺跡北東部にあたる。小矢部川と千保川の合流地点の左岸に所在し、字名に“渡”と痕跡が残される。木下良氏の古代交通路説によれば亘理湊ないし亘理駅の推定地とされる（木下2009）。過去の調査では遺構・遺物は確認されておらず、詳細は不明である。本地点の地表面は盛土により整地され、小矢部川に向かい標高がごくゆるやかに低くなる。本地点の試掘調査は対象地に南北方向に計2本のトレンチを配し、地下の状況の把握につとめたところ、現地表約70～80cm下の標高約3.6m付近にて青灰色砂質土の地山を確認した。遺物の出土はなく、遺構は検出されなかった。



第38図 守護町遺跡（黒木地区）位置図

25. 出来田南遺跡（南地区）

所在地 高岡市問屋町 188 - 2

調査期間 平成 25 年 2 月 15 日

対象面積 260.01 m²

試掘坑 1 本

発掘面積 約 12.75 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

出来田南遺跡は古代～中世の集落跡とされる。遺跡中央～南側にて遺構・遺物が確認されており、特に県道能町・庄川線とその周辺の発掘調査では古代の掘立柱建物群に加え、木簡や墨書き土器など文字資料が出土している。また古代道路の側溝と考えられる遺構が検出され、交通路上であることが指摘されている（高岡市教委 2000、県財団 2012）。本地点は出来田南遺跡の北端にあたる。庄川と和田川の合流地点付近の左岸に所在し、古代の東大寺領莊園である鳴戸庄（金田説）の比定地とされる。

対象地に東西方向に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況の把握につとめたところ、現地表約 50 ～ 80cm 下の標高約 9.6 ～ 9.9 m 付近にて青灰色砂質土の地山を確認した。地山は庄川に向かって低くなることが確認された。遺物の出土ではなく、遺構は検出されなかった。



第 39 図 出来田南遺跡（南地区）位置図

26. 東木津遺跡（津沢地区）

所在地 高岡市佐野 1094-1、1095-1

調査期間 平成 25 年 2 月 22 日

対象面積 1,312 m²

試掘坑 1 本

発掘面積 約 60 m²

調査原因 老人介護施設建設

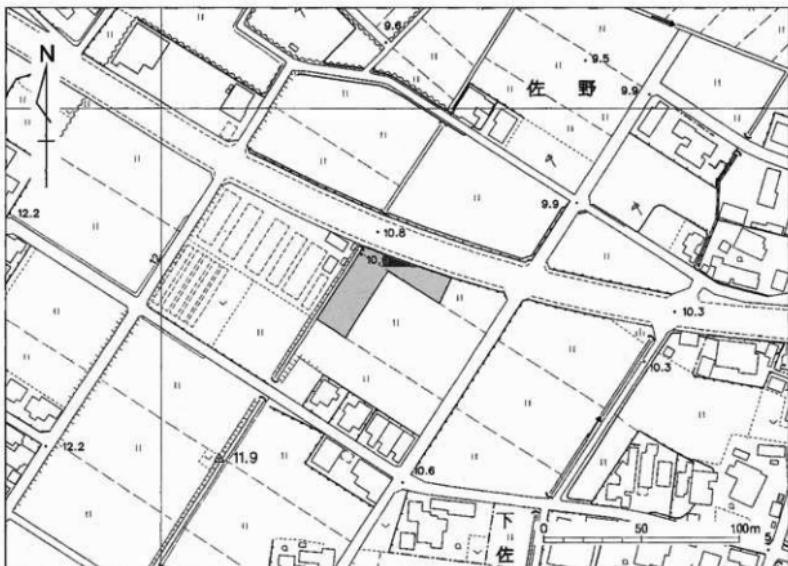
検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

東木津遺跡は庄川扇状地の扇端部にあり、佐野台地の北東端部に立地する。北西側のやや標高が高い地点の都市計画道路付近で実施した発掘調査では、弥生・古墳・古代・中世の遺構・遺物が多く見つかっている（高岡市教委 2001 他）。本地点は遺跡の南東側に位置する。

試掘調査は対象地に 1 本のトレンチを配し地下の状況を把握したところ試掘坑からは遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。第 1 トレンチの北側では地表下約 130cm、標高約 7.3m、付近にて地山を検出した。南側は湿地様の堆積物が深く堆積し、地山の検出はできなかった。本地点西側の高い面と低い崖面があることから、本地点は浅い谷であったことが考えられる。



第 40 図 東木津遺跡（津沢地区）位置図

27. 越中国府関連遺跡（魚倉地区）

所在地 高岡市伏木一宮 2丁目 522 - 1

調査期間 平成 25 年 2 月 15 日

対象面積 302 m²

試掘坑 1 本

発掘面積 約 2 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 古代須恵器

調査概要

本地点は旧一宮村に所在し、本地点付近は小字「大門」と比定され南東には越中国分寺跡推定地がある。1988年に試掘調査を実施し、古代の溝、須恵器・土師器・瓦など国分寺関連と考えられる遺物と遺構が出土している。（高岡市教委 2003）

対象地に計 1 箇所のトレンチを配し地下の状況の把握をしたところ、現地表面約 30cm 下の標高約 21.4 m で地山を検出した。遺構は検出されなかったが、表土掘削中に古代須恵器が出土した。



第 41 図 越中国府関連遺跡（魚倉地区）位置図

28. 上糞中田遺跡（塙本地区）

所在地 高岡市上糞 370 - 1

調査期間 平成 25 年 2 月 28 日

対象面積 200 m²

試掘坑 1 本

発掘面積 約 19.5 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 時期不明土師器

調査概要

本地点は、遺跡の中央に位置し本地点西側の岸渡川に向かって標高が低くなる。過去に本地点の北側にて試掘調査を実施した結果、土坑等の遺構と中世の遺物が出土している（高岡市教委 2008）。

試掘調査は対象地に 1 本のトレンチを配し地下の状況の把握したところ、試掘坑からは遺構は検出されなかった。遺物は時期不明土師器片が出土した。第 1 トレンチの東側では、地表下約 40cm、標高 18.4m 付近にて地山を検出した。遺構の検出はなく、遺物は時期不明土師器片が出土した。しかし、遺物は本地点西側のゆるやかな落ち込みから出土しており、原位置は移動していると考えられる。



第 42 図 上糞中田遺跡（塙本地区）位置図

29. 越中国府関連遺跡（上野地区）

所在地 高岡市伏木古府 3丁目 399番1

調査期間 平成25年3月21日

対象面積 572 m²

試掘坑 3本

発掘面積 約21 m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要

本地点は旧一宮村に所在し、勝興寺の南西の台地辺縁部にあたる。本地点付近は小字「御亭角」・「山姥」と北定される。本地点南側に古府谷があり、谷地形に向かって標高が低くなり、地形変換点となる。過去に本地点の東側の能松地区他数回の試掘調査で、古代～中世の集落・寺院跡などが推定されている。

試掘調査は対象地に試掘坑を3箇所設定し地下の状況の把握したところ、遺構・遺物は確認できなかった。いずれの試掘坑でも近現代の盛土と削平により地形の変更の影響で盛土直下にて地山を検出している。



参考文献

- 富山県教育委員会 1967 「越中国分寺とその周辺の遺跡調査報告書」
- 富山県教育委員会 1984 「小杉流通業務団地内遺跡群 第6次緊急発掘調査概要」
- 古岡英明・西井龍儀他 1987 「北陸の古代寺院 一その源流と古瓦」 北陸古瓦研究会編 桂書房
- 古岡英明 1990 「越中国府と万葉集」「ふるさとの万葉 越中」 高岡市万葉歴史館編
- 正和勝之助 1991 「越中伏木地理志稿」 城書房
- 内田亜紀子 2002・2003 「富山県の黒色土器」「富山県の黒色土器(2)」「富山考古学研究」第5、6号
富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 小栗由希代 2003 「古代越中における陶窯に関する一考察」「富山市考古資料館紀要」第22号
富山市考古資料館 2003
- 富山市考古資料館 1996 「富山市西金屋塗跡出土の円面鏡」「富山市考古資料館報」No.30
- 奈良文化財研究所編 2003・2004 「古代の官衙遺跡I - 遺構編 -」「古代の官衙遺跡II - 遺物・遺跡編」
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 1996 「梅原謙摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)」
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2006 「下老子笠川遺跡発掘調査報告」
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 2009 「平成20年度 埋蔵文化財年報」
- 山中敏史 1994 「古代地方官衙遺跡の研究」 城書房
- 木下 良 2009 「事典 日本古代の道と駅」 吉川弘文館
- 根津明義 2009 「古代越中における官衙的様相と在地社会」
『環日本海歴史民俗学叢書13 古代の越中』 高志書院
- 高岡市教育委員会 1986 「美野下遺跡調査概報」
- 高岡市教育委員会 1987a 「越中国府関連遺跡調査概報I」
- 高岡市教育委員会 1987b 「西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報IV」
- 高岡市教育委員会 1988 「越中国府関連遺跡調査概報II」
- 高岡市教育委員会 1989 「越中国府関連遺跡調査概報III」
- 高岡市教育委員会 1994 「越中国府関連遺跡調査概報VI」
- 高岡市教育委員会 1996 「越中国府関連遺跡調査概報VII」
- 高岡市教育委員会 1998 「市内遺跡調査概報VII」
- 高岡市教育委員会 2003 「市内遺跡調査概報XIII」
- 高岡市教育委員会 2008 「市内遺跡調査概報XVII」
- 高岡市教育委員会 2009 「市内遺跡調査概報XVIII」
- 高岡市教育委員会 2010 「越中国府関連遺跡調査報告」
- 高岡市教育委員会 2011 「市内遺跡調査概報XX」
- 高岡市教育委員会 2012 「市内遺跡調査概報XXI」
- 高岡市教育委員会 2013 「市内遺跡調査概報XXII」
- 高岡市教育委員会 2013 「石名瀬A遺跡調査報告」
- 高岡市教育委員会 2014 「中木津遺跡・西木津遺跡調査報告」

写 真 図 版

図版〇一　遺構写真　越中国府関連遺跡　牧野地区



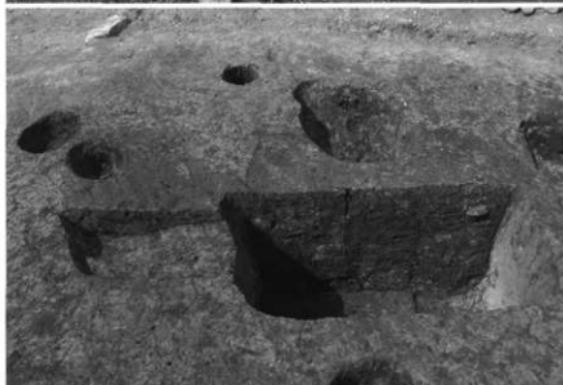
1. C区全景（西）



2. B区全景（東）



1. B区 SB01・02
完掘状況（南）



2. B区 SB01・02
SP06・07 土層断面（南）



3. C区 SB01
柱穴SP42・43
完掘状況（北）



1. C区 土坑SK42
完掘状況（北）



2. B区 土坑SK03
完掘状況（南）



3. B区 溝SD02
遺物出土状況（南西）



1. C区 SB03・04
完掘状況（東）



2. C区 SB01・02
完掘状況（東）

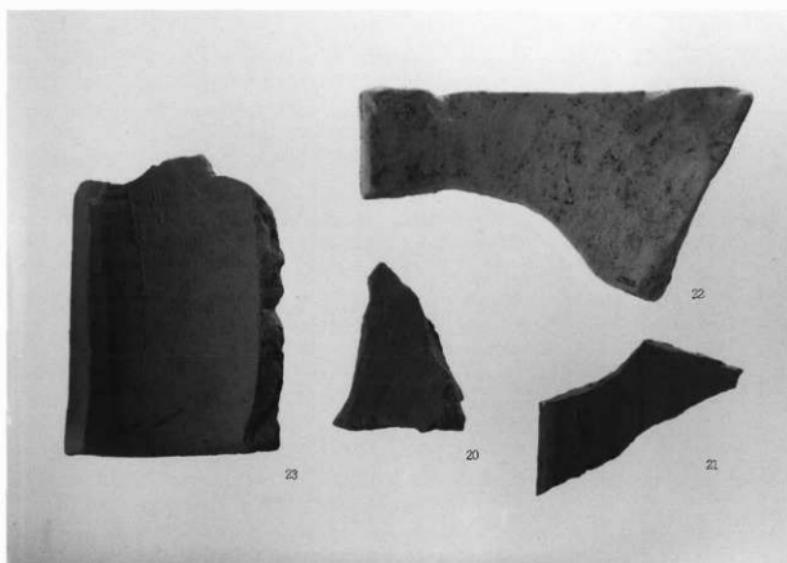


3. B区 溝SD03・SK22
完掘状況（南）

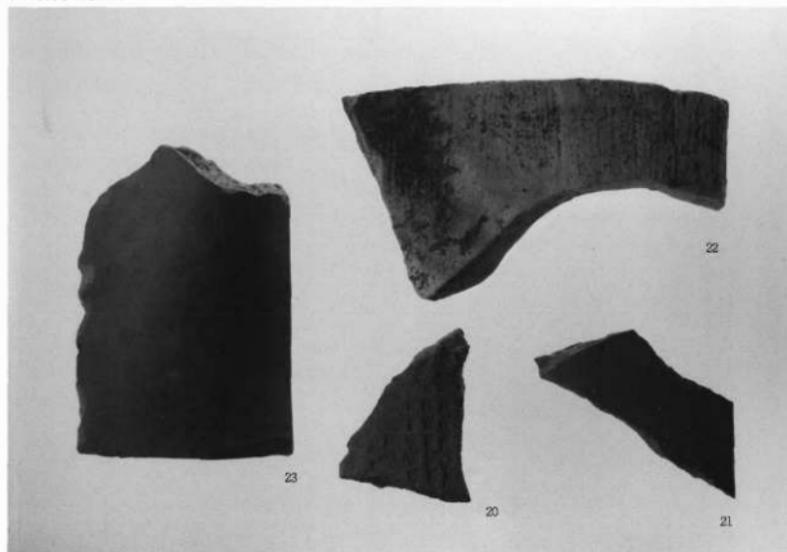
図版〇五 遺物写真 越中國府関連遺跡 牧野地区



古代須恵器・土師器・陶器・縄文陶器・灰陶器・墨青土器、中世土師器



1. 古代 瓦凹面

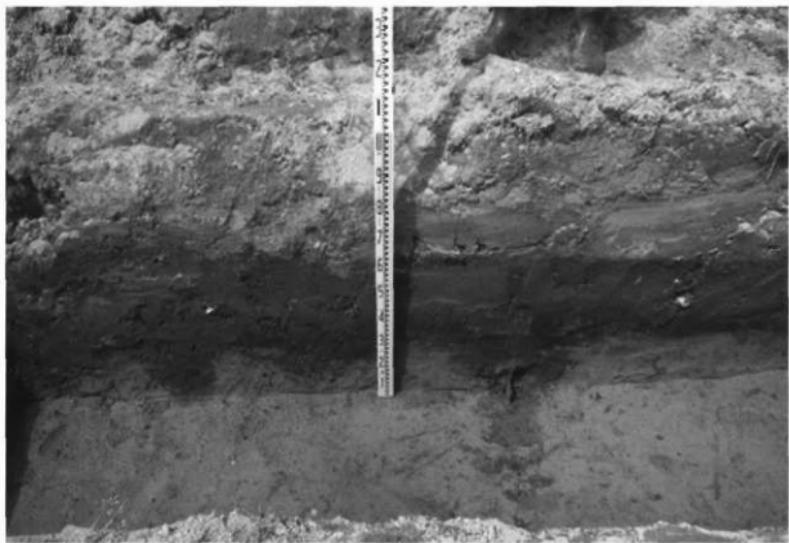


2. 古代 瓦凸面

古代 瓦



1. 第1トレンチ全景（東）

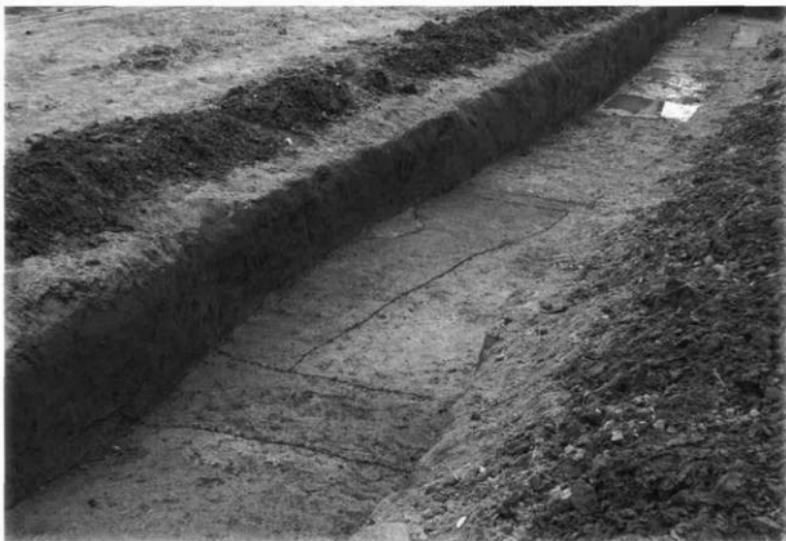


2. 第2トレンチ 西側土層断面（南）

図版〇八 瑞龍寺遺跡 赤井地区



1. 第1トレンチ全景（東）



2. 溝状遺構検出状況（北東）



1. 山崎地区 第2トレンチ 完掘状況（東）



2. 淀地区 第1トレンチ 完掘状況（東）



1. 第1トレンチ全景（北東）



2. 第2トレンチ全景（北東）

図版一一 中木津遺跡 寺西地区



1. 第1トレンチ全景（東）



2. 柱穴SP01土層断面（北）



1. 第1トレンチ全景（北）



2. 第2トレンチ全景（南）



1. 第1トレンチ全景（北）



2. 第2トレンチ 溝1・2検出状況（南）



1. 第3トレンチ全景(南)



2. 第4トレンチ全景(南)

図版一五
三ヶ遺跡
三興土木地区



1. 第2トレンチ全景（南東）



2. 第2トレンチ柱穴列（東）



1. 完掘状況南側（西）



2. 第5トレンチ北壁（南）

図版一七 瑞穂町遺跡 ア・ライズ地区



1. 第1トレンチ全景（北）



2. 第3トレンチ全景（北）

図版一八 井口本江遺跡
再開発3地区



1. 第1トレンチ全景（北）



2. 第3トレンチ 濃検出状況（南東）



1. 第6トレンチ 北壁土層断面（南）



2. 第11トレンチ 溝検出状況（南東）

図版二〇 越中国府関連遺跡 山崎地区



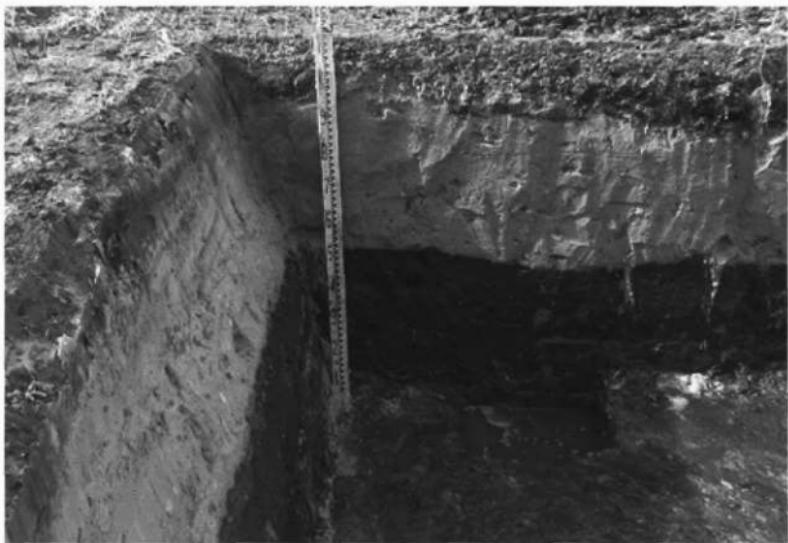
1. 第1トレンチ全景（南）



2. 第3トレンチ全景（西）



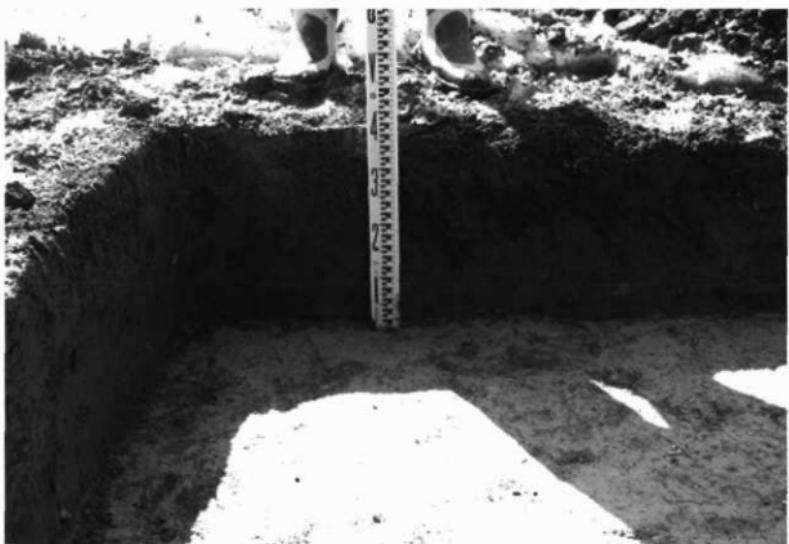
1. 第1トレンチ全景（北）



2. 第1トレンチ 西壁土層断面（東）



1. 全景（東）



2. 南壁土層斷面（北）

報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさがいほうにじゅうさん							
書名	市内遺跡調査概報XXIII							
調査名	平成24年度 越中国府関連遺跡の調査他							
卷次								
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報							
シリーズ番号	第74冊							
編集機関	高岡市教育委員会							
発掘担当者	横津明義 田上和彦 江口雅子 杉山大智							
報告書編集者	田上和彦 杉山大智							
所在地	〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号 Tel 0766-20-1463							
発行年月日	西暦 2014年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地 市町村	コ一ド 遺跡番号	北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積	調査原因	
越中国府関連遺跡	富山県高岡市 伏木古府	016202 202013	36° 46' 05"	137° 04' 20"	120725 120907	201m ²	個人専用 住宅建設	
その他の遺跡 各調査地区	富山県高岡市	016202			120408 130322		個人専用 住宅建設等	
所収建跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
越中国府関連遺跡	官衙	古代 柱 中世	掘立柱建物址 4棟 土 坑 20基 穴 105基 溝状遺構 4条	古墳須恵器 古代須恵器・土師器 縄釉陶器、灰陶器等 古代瓦、中世土師器 青磁、白磁	奈良～平安時代の 大型掘立柱建物 高級陶器・陶器等 官衙系遺物の出土			

高岡市埋蔵文化財調査概報第74号

市内遺跡調査概報 XXIII

編集・発行 高岡市教育委員会
〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号
TEL 0766-20-1463

2014年3月20日

印 刷 所 キクラ印刷株式会社
〒933-0322 富山県高岡市樋越路18-2
TEL. 0266-31-2794

